

# 烏帽子会会報

2016年秋号 Vol.61



烏帽子会ホームページが新しくなりました。

- 会長挨拶 3p
- 教授就任挨拶 5p
- 研究奨励賞論文抄録 9p
- 烏帽子会賞受賞の言葉 40p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・会長挨拶	高木 忠博	3
・平成 29 年医学部医学科入学試験の要点		4
・教授就任挨拶		
就任のご挨拶	高田 徹	5
福岡大学博多駅クリニック開院後の近況	仁位 隆信	6
・総会報告		
第 35 回烏帽子会総会報告	佐々木 隆光	7
・研究奨励賞		
平成 28 年度研究奨励賞選考報告	松永 彰	9
平成 28 年度研究奨励賞受賞者名簿		9
・平成 28 年度授賞論文抄録		
LCZ696, an angiotensin receptor-neprilysin inhibitor, improves cardiac function with the attenuation of fibrosis in heart failure with reduced ejection fraction in streptozotocin-induced diabetic mice. (論文)	末松 保憲	10
Pancreatic Fistulae Secondary to Trypsinogen Activation by Pseudomonas Aeruginosa Infections after Pancreatoduodenectomy (論文)	山下 兼史	11
GLP-1 受容体作動薬 Exendin-4 とメトホルミンの併用は前立腺癌を抑制する (論文)	堤 陽子	11
Paradoxical nocturnal elevation of sympathetic tone and spontaneous ventricular fibrillation in Brugada syndrome (論文)	熊谷 尚子	12
成人発症Ⅱ型シトルリン血症における脂肪肝は PPAR $\alpha$ の発現低下に由来する (論文)	木村 岳史	12
冠動脈疾患とグリコアルブミン、ヘモグロビン A1c との関連について (論文)	則松 賢次	13
非弁膜症性心房細動患者におけるリバーロキサバンおよびワルファリン内服下での薬力学的抗凝固効果の比較と日内変動 (論文)	吉 峯 有香	13
・平成 29 年度研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項		14
・烏帽子会ホームページリニューアルのご報告	北島 研	15
・平成 27 年度評議員会議事録		16
・学会開催報告		
第 70 回 NPO 法人 日本口腔外科学会学術集会の開催報告と御礼	喜久田 利弘	23
第 59 回日本形成外科学会総会・学術集会 開催報告	大慈 弥裕之	24
第 8 回日本子ども虐待医学会学術集会	小川 厚	25
第 86 回九州眼科学会開催報告	佐伯 有祐	26
・学生対策報告		
啓明大学での交換留学を終えて	中田 安香	27
Keimyung-Fukuoka Universities Medical Student Exchange Program for BSL 2016.5.8 ~ 2016.5.21	後藤 均	28
平成 28 年度烏帽子会主催福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて	竹下 盛重	30
熊本阿蘇地震における小児在宅医療への関係者の対応	安緒 方健一	31
M4 激励会を終えて	安心院 勇佑	32
2016 年 新入生ケーシー白衣授与式	安元 佐和	33
新入生歓迎会	小玉 正太	34
・支部便り		
筑後支部便り	浅倉 敏明	35
・キャンパスだより		
烏帽子会賞受賞者名簿		36
西医体準優勝から学んだこと	鎌谷 魁星	36
西医体洋弓入賞のご報告	柳 邊崇志	37
第 106 回日本消化器病学会九州支部例会研修医奨励賞受賞	宮部 美圭	38
第 105 回日本病理学会総会での学部学生ポスター発表を通して	野中 裕文	39
・医学部同窓会諸表／医局長・医長名簿		40 ~ 42
・教育職員人事		43
・事務局からのご連絡／編集後記		43

## 会長挨拶

## リオオリンピックで思ったこと

鳥帽子会 会長 高木 忠博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



リオデジャネイロオリンピックが開催され、夜中も睡魔と闘いながらTVを見て応援していました。そこで日本のメダル獲得選手へのインタビューを聞きながら、ふと選手のどんな力がそれを可能にしたのだろうかと思いました。選手は、感想を聞かれると「自分はメダルを目標にきたので嬉しい」と全員が答えますが、この言葉の最初の「メダルを目標に・・・」は、オリンピックへの出場選手は全員そうであろうと思います。しかし、「メダルを取れたから良かった!」「ラッキーでした!」「偶々偶然ですよ!」というような言葉は誰一人として発していないことに気がきました。この「目標に・・・」の言葉への精神的凝集度の高さがメダリストを作っている様に思いました。この凝集度を選手に作るの、監督、コーチであると思いますが、まず自分達が、そのレベルに達していなければ選手には絶対伝わらないと思います。そう考えるとシンクロコーチ、柔道監督の行動や言動の辻褄が分かる様な気がします。シンクロコーチが「あんた達は、負けることに慣れているかもしれないが、私は、勝つことにしか慣れていないから、負けることに慣れている人は出て行きなさい!」と初対面の時に話したことを雑誌で知りました。また、柔道監督は、柔道強豪国を世界中回り強さを細かく分析し良いところはドンドン取り入れたと言いま

す。そして、全階級で金を取る!との自分の覚悟を選手達に徹底して話していたと聞きます。この監督の覚悟が、全階級のメダル獲得に繋がったと思います。また、さらに言うなら選手では、体操の内村選手の逆転鉄棒の着地です。あの時内村選手の体はボロボロの状態だったと言います。しかし、団体金メダルへの執念は大会前から尋常ではなかったそうです。自分が決める!という義務感が逆転を決めたあのピタッと決まった着地に成ったと言われます。この様なことから感じるのは、人間が、目標を定める時は、「〇〇を必ず実現する!」と心底思い込んで精神的凝集度が出来上がった時に、初めて「目標」は成就する様に思いました。

今までの国家試験合格「100人で100%」の考えを「100%で100人」の考え方に変更しなければいけない様に思いました。つまり、金メダル(100%)取ることが国試では大切なのではないだろうか?と思うのですが如何でしょうか?国家試験合格率向上は、大学の仕事であって、同窓会の関与する余地は殆どありません。しかし、出身大学の卒業生の成績は、我が子のことの様に思われてなりません。100%目標というのは3つ(学生、大学、同窓生)のグループが一枚岩になり100%へ向かって精神的凝集度を高レベルまで持ってゆかなければ達成出来ない事業の様に思いました。完璧にする為の努力、行動は本質的な問題を我々に教えてくれるのではないかと思います。

テニスのトップ選手のコーチに全英、全米、全仏の優勝者になっているのは、勝者になる為には勝者しか解らないノウハウがあるからだと思います。国試100%が成し遂げられればその卒業生たちの中からこれを後に伝える指導者が出るのではないかと期待されます。

## 平成 29 年 医学部医学科入学試験の要点

	A 方式推薦 (H28.3 月卒業者 H29.3 月卒見込者)	※地域枠推薦	大学入試センター試験 利用入試	一般入試系統別 一次選考	センター試験利用入試二次選考 一般入試系統別二次選考
出願期間	平成 28 年 11 月 1 日(火) ～ 11 月 10 日(木)	平成 28 年 11 月 1 日(火) ～ 11 月 10 日(木)	平成 29 年 1 月 5 日(木) ～ 13 日(金)	平成 29 年 1 月 5 日(木) ～ 17 日(火)	
試験日	平成 28 年 11 月 27 日(日)	平成 28 年 11 月 27 日(日)	大学入試センター試験 平成 29 年 1 月 14 日(土)・15 日(日)	平成 29 年 2 月 2 日(木)	平成 29 年 2 月 14 日(火)
試験科目	外国語(英語)、数学、 面接、調査書	外国語(英語)、数学、 面接、調査書	外国語、国語、数学、 理科(2 科目)	外国語、数学、理科 (2 科目)、小論文	面接、調査書
募集人員	20 人	10 人	10 人	70 人	
合格発表	平成 28 年 12 月 6 日(火)	平成 28 年 12 月 6 日(火)	一次合格： 平成 29 年 2 月 7 日(火)	平成 29 年 2 月 7 日(火)	平成 29 年 2 月 22 日(水)
<p><b>福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい。</b></p> <p>烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ねしております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る大学もあるようですが、本学ではまだ 10 数名、入学定員の 10% 台に過ぎません。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えなければ受験されるお子様のお名前を下記あてお知らせください。</p> <p>TEL : 092-865-6353 FAX : 092-865-9484 E-mail : eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp 〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会</p>					<p><b>追加合格</b> 平成 29 年 2 月 22 日(水)の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から 3 月 31 日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。 入学申込金締切 (平成 29 年 3 月 1 日) 入学手続き締切 (平成 29 年 3 月 9 日)</p>

※地域枠推薦該当者

- ①九州(沖縄を含む)・山口各県内に所在する高等学校または中等教育学校の出身者
- ②出願時において、本人または保護者(親など)が九州(沖縄を含む)・山口各県内に居住する者
- ③高等学校または中等教育学校を平成 27 年 3 月以降に卒業した者および平成 29 年 3 月卒業見込の者
- ④高等学校または中等教育学校を平成 24 年 3 月以降に卒業した者で、大学、短期大学(高等専門学校を含む)、大学校、専修学校の専門課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)に在学中の者および平成 27 年 3 月以降に卒業した者



## 教授就任挨拶

## 教授就任のご挨拶

福岡大学病院 感染制御 教授 高田 徹



高田 徹(たかだ とおる)  
教授 略歴

1963年 1月9日生  
 1981年 久留米大学附設高等学校卒業  
 1987年 岡山大学医学部卒業  
 1987年 九州大学第一内科入局  
 1987年 佐賀県立病院好生館内科  
 研修医  
 1988年 九州大学医学部附属病院  
 内科研修医  
 1993年 九州大学大学院 修了  
 医学博士  
 1993年 国家公務員等共済組合連合会  
 千早病院内科医師  
 1994年 福岡大学医学部臨床検査  
 医学講座 助手  
 1999年 Vanderbilt 大学内科  
 感染症部門リサーチフェロー  
 2000年 New York 大学医学部内科  
 リサーチフェロー  
 2002年 福岡大学病院血液・糖尿病科  
 講師  
 2008年 上海市(復旦大学附属)公共  
 衛生臨床センター 客員教授  
 2009年 福岡大学病院感染制御部 部長  
 福岡大学病院腫瘍・血液・  
 感染症内科 准教授  
 2013年 福岡大学病院感染制御部  
 診療教授  
 2016年 福岡大学病院感染制御部  
 教授

平成28年10月1日付けで福岡大学病院感染制御部教授を拜命致しました。私は1987年に岡山大学医学部を卒業後、九州大学第一内科に入局しました。佐賀県立病院好生館内科、九州大学附属病院内科で研修後、九州大学大学院に進み細菌学教室(天児和暢教授)で、食中毒の原因菌である *Campylobacter jejuni* の基礎研究を行って学位を得ました。1994年に福岡大学臨床検査医学講座(小野順子教授)にスタッフとして着任以来、3年間の留学生生活を挟んで約20年間を福岡大学でお世話になってきたこととなります。留学中はピロリ菌やマイクロバイーム(体内常在菌叢)研究で世界的に高名な内科医・微生物学者である Martin J. Blaser 教授のご指導の下、基礎研究に従事するのみならず、ラウンドや臨床カンファレンスにも参加させて頂き、米国における感染症医の活動を幅広く学ぶ事ができました。

2002年に帰国後は田村和夫教授の下、感染症内科医として活動する傍ら感染対策室の業務に従事していました。2008年に韓国からの持ち込み例を契機とした国内初の多剤耐性アシネトバクターのアウトブレイク事例に遭遇し、2009年より福岡大学病院感染制御部長として現在に至ります。

今日、世界的に深刻化する薬剤耐性菌の多様化やグローバル化に伴いボーダレスなリスクが増大する新興再興感染症等、感染症をめぐる状況も私が医師となりました30年前とは随分と様相が異なるものとなってきました。ヒト(患者)の移動と連関する病原体や耐性菌の感染制御の上では、一医療機関のみならず関連医療施設を含めた地域ぐるみの感染対策や抗菌薬の適正使用がより重要性を増しています。今後は、中央部門である感染制御部の特質を生かし、「横断」「連携」「チーム力」の3つの柱の下、院内各科、関連医療機関、行政、および同業に関わる国内外の医療・研究機関の皆様とも有機的な連携を強化し、地域並びにアジアに開かれた福岡大学病院の発展、向上を裏から支えるべく、診療・教育・研究の各方面で微力を尽くしたいと存じます。

今後共も引き続き、烏帽子会同門の皆様にあられましては、おひとりおひとりの温かいご支援とご理解を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

教授就任挨拶

## 福岡大学博多駅クリニック －開院後の近況－

福岡大学博多駅クリニック診療所長 教授 仁位 隆 信 (4 回生)



仁位 隆信(にい たかのぶ)  
教授 略歴

昭和 30 年(1955) 7 月 2 日生

- 1981. 3 福岡大学医学部卒業
- 1981. 6 福岡大学・第二内科入局
- 1983. 4 国家公務員共済組合連合会  
浜の町病院・内科
- 1984.10 米国クリーブランドクリニック  
~1987.5 心臓・高血圧部門 リサーチフェロー
- 1989.10 福岡大学病院内科第二助手
- 1990. 4 福岡大学病院内科第二講師
- 1997. 4 唐津赤十字病院内科部長
- 2004. 4 唐津赤十字病院循環器内科  
部長
- 2009. 4 佐田厚生会佐田病院副院長
- 2016. 4 福岡大学教授 福岡大学  
博多駅クリニック診療所長

《学 会》

- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本循環器学会 循環器専門医
- 日本心臓病学会 心臓病上級臨床医  
(FJCC)
- アメリカ内科学会 特別正会員  
(FACP)
- アメリカ心臓病学会 特別正会員  
(FACC)

《その他》

- 産業医
- 日本プライマリ・ケア連合学会  
プライマリ・ケア認定医、指導医

今春、博多駅博多口の南に立ちあがった KITTE 博多ビル 8 階に、4 月 21 日、福岡大学博多駅クリニックがオープンしました。私は 4 月 1 日付けで診療所長を拝命しました。

名前はクリニックですが、女性医療、ロボットスーツを活用したリハビリ、専門外来を行い、私も含め 3 人の医師が常勤し CT も設置されています。クリニックは 2 つのユニットに分かれ、女性ユニットで働く医師、看護師、検査技師はすべて女性です。オープン後、私も患者不在の時しか足を踏み入れておらず男子禁制の場所です。予約制で、形成外科、美容外科、美容皮膚科、乳腺外科、産婦人科、泌尿器科、肛門科、精神神経科の診療を福大病院の先生方の応援を得て行っています。一般診療ユニットでは、リハビリ前の診療、頭痛外来、一般内科、循環器内科に加え、福大病院、福大筑紫病院から先生方に来て頂き、皮膚科、泌尿器科、消化器科、整形外科等の専門外来を行っています。7 月からはフットケア外来、8 月からは渡航外来も始め大学が運営するクリニックとしての特色を出せるよう努めています。9 月に福岡市医師会に入会し周りの先生方とも良好な関係を築いています。私は循環器内科・一般内科を担当していますが場所柄でしょうか、来院される方は感冒や膀胱炎症状が主訴の若い方が殆どで、循環器疾患を診るとつい興奮してしまいます。

開院当時は大学が商業施設内にクリニックを開いたその物珍しさにマスコミも注目しましたが、今はその熱もさめたようです。Web page も完成しましたが一般の方の認知度がいまひとつで、当クリニックを知ってもらうため市民講座を開いたり駅構内の商業施設で健診を行ったりして情宣に努めています。

福岡大学の 3 番目の医療施設を担当することになり身が引きしまる思いですが、今のところ運営実績は予想を下回り、頭を痛め、一生懸命取り込むスタッフの姿に元気をもらう毎日です。新規オープンを経験し、開業されたばかりの同窓会の先生方のご苦勞を肌身で感じています。久しぶりに大学に戻り大学の先生方や職員の方、また同窓会の先生方と話す機会が増え喜びと感謝の気持ちで一杯です。引き続きご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 総会報告

# 第 35 回烏帽子会総会報告

第 35 回烏帽子会総会幹事学年世話人代表 佐々木 隆 光 (19 回生 総会担当理事)

2016年7月2日(土曜日)に福岡大学医学部同窓会 第35回烏帽子会総会と特別講演、懇親会が西鉄ソラリアホテルで行われました。今年の総会は、19回生が幹事をさせていただきました。126名の会員先生方(特別会員3名、正会員54名、19回当番幹事43名、29回生1名、学生会員19名)に出席いただきました。総会の特別講演では、「アンガーマネジメント～怒りと上手に付き合おう～」と題して、アンガーマネジメントファシリテーターの根岸由紀江先生を迎え、ご講演いただきました。拝聴した

スキルを生かし、臨床や職場環境が潤滑になれば幸いです。

懇親会では、7題の優秀研究に対して烏帽子会研究奨励賞、11の個人と団体の学生活動に烏帽子会賞の表彰がありました。今年の烏帽子会賞は部活動だけでなく、学会の研修医セッションなどで優秀賞を受賞した学生も対象となりました。在校生は学術面でも奮闘しており頼もしく思います。大変ご多忙の中、ご参加いただきました会員の皆様、ありがとうございました。



幹事の19回生の先生方／平成28年7月2日 於ソラリア西鉄ホテル



総会風景



講演会講師



講演会風景



乾杯 朔 医学部長



ゲストの特別会員の先生方(岩崎宏 福大名誉教授/安永晋一 郎 生化学教授/宮本新吾 産科婦人科学教授)



懇親会



懇親会風景



恒例の輪になって校歌斉唱



20 回生下地栄壮先生へ幹事引継ぎ



万歳三唱 9 回生 二田先生

## 研究奨励賞

## 平成 28 年度 研究奨励賞選考報告

選考委員長 松 永 彰 (3 回生)

今回の研究奨励賞選考では 3 回生の松永 彰が選考委員長を拝命しました。今年度の研究奨励賞には過去最高の 14 件の応募がありました。どれも素晴らしい英文研究論文での応募であり、選考はかなり難航しました。また今回は、教授の方々が 19 名とこちらも過去最高数の選考委員で審査を行いました。まず、選考委員全員で、研究奨励賞応募論文に対して相対評価をして頂き、集計したものを点数化して順位を決定し、それをもとに選考を行いました。選考委員会では、出席された委員の先生全員がそれぞれご自分の意見を述べ、時間をかけて選考を行いました。インパクトファクター (IF) の高いジャーナルの論文が多かったため、以前であれば受賞対象となる研究論文が対象とならなかつたことは、今回の選考委員長として少々申し訳なく思っています。そして当然

のことで、とても良い研究論文が研究奨励賞に選ばれました。

平成 28 年度研究奨励賞は、末松保憲先生、山下兼史先生、堤 陽子先生、熊谷尚子先生、木村岳史先生、則松賢次先生、吉峯有香先生の 7 名の先生方が受賞されました。どの論文も甲乙付けがたく、素晴らしい論文で、結果的に選出された論文は IF 2.5 以上のジャーナルに掲載されており、国際的にも高レベルの研究論文でした。また、留学中の末松保憲先生を除く 6 名の先生方が、第 35 回烏帽子会総会で行われた研究奨励賞授与式に参加されました。

今後も毎年、このように素晴らしい研究論文の応募が続くことを願っています。

## ● 平成 28 年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 末 松 保 憲 (準会員)	LCZ696, an angiotensin receptor-neprilysin inhibitor, improves cardiac function with the attenuation of fibrosis in heart failure with reduced ejection fraction in streptozotocin-induced diabetic mice. (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部外科学講座 消化器外科学 福大助教 山 下 兼 史 (正会員 / 28 回生)	Pancreatic Fistulae Secondary to Trypsinogen Activation by Pseudomonas Aeruginosa Infections after Pancreatoduodenectomy (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学 福大研究生 堤 陽 子 (正会員 / 27 回生)	GLP-1 受容体作動薬 Exendin-4 とメトホルミンの併用は前立腺癌を抑制する (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 熊 谷 尚 子 (正会員 / 26 回生)	Paradoxical nocturnal elevation of sympathetic tone and spontaneous ventricular fibrillation in Brugada syndrome (論文) / 優秀賞
長野赤十字病院 消化器内科 木 村 岳 史 (正会員 / 28 回生)	成人発症 II 型シトルリン血症における脂肪肝は PPAR $\alpha$ の発現低下に由来する (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 則 松 賢 次 (正会員 / 31 回生)	冠動脈疾患とグリコアルブミン、ヘモグロビン A1c との関連について (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 臨床検査医学 福大助手 吉 峯 有 香 (正会員 / 32 回生)	非弁膜症性心房細動患者におけるリバーロキサパンおよびワルファリン内服下での薬力学的抗凝固効果の比較と日内変動 (論文) / 優秀賞



(左より) 高木忠博会長、吉峯有香先生、則松賢次先生、木村岳史先生、熊谷尚子先生、堤陽子先生、山下兼史先生、松永彰選考委員長

## 平成 28 年度授賞論文抄録

# LCZ696, an angiotensin receptor-neprilysin inhibitor, improves cardiac function with the attenuation of fibrosis in heart failure with reduced ejection fraction in streptozotocin-induced diabetic mice. (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学  
University of California, Irvine Department of Nephrology  
and Hypertension, Research Scholar

末 松 保 憲 (準会員)



序論：LCZ696 はアンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) 作用とネプリライシン阻害 (NEP) 作用を併せ持つ慢性心不全に対する新薬である。今回我々は糖尿病併発した虚血性心不全モデルに対する効果・作用機序

を検討した。

方法：C57BL6J マウスにストレプトゾトシン、心筋虚血再灌流障害を加えモデルマウスを作成した。その後 LCZ696、ARB であるバルサルタン、コントロール群の 3 群に分類し 28 日間薬剤を投与した。

結果：投与期間中の死亡率、血圧、脈拍は 3 群間に

有意差はなかった。LCZ696 群はコントロール群と比較して左室駆出率が有意に高かった。また、バルサルタン、LCZ696 の両群ともコントロール群と比較して心筋重量は有意に低かった。シリウスレッド染色では LCZ696 群はバルサルタン群、コントロール群よりも有意に線維化を抑制していた。また、LCZ696 群はコントロール群と比較して TGF- $\beta$ 、ANP を有意に抑制した。

結語：LCZ696 は心肥大や線維化を抑制し、心機能・心不全を改善させた。また線維化の抑制効果がバルサルタン群よりも大きかったため、NEP が特に寄与している可能性が示唆された。

## Pancreatic Fistulae Secondary to Trypsinogen Activation by Pseudomonas Aeruginosa Infections after Pancreatoduodenectomy (論文)

福岡大学医学部外科学講座 消化器外科 助教 山下 兼史 (28 回生)



論文要旨：近年、膵頭十二指腸切除術 (PD) の重篤な合併症である膵液漏と細菌感染との関連が示唆されている。2009 年 1 月から 2013 年 3 月までの PD50 症例を膵液漏の Grade 別に分類した。細菌はドレーン

排液より分離した。細菌とトリプシノーゲンの培養液を SDS-PAGE にて電気泳動を行い、得られたペプチドを質量分析で解析した。Zymography を用いてトリプシノーゲン活性化プロテアーゼを検索した。Enterobacter cloacae と Pseudomonas aeruginosa

は Grade B/C の患者より分離され、これらの細菌の培養上清はトリプシノーゲンをトリプシンへ活性化した。また、この現象はプロテアーゼ阻害薬によって阻害された。P. aeruginosa の培養上清中のトリプシノーゲン活性化バンドを 50kDa に認めた。PD 周術期のこれらの細菌を中心とした感染のコントロールは重要であると思われる。

謝辞：この論文を作成するにあたりご指導を賜った福岡大学医学部微生物免疫学教室・消化器外科、神戸大学質量分析センターの先生方に心より御礼申し上げます。

## GLP-1 受容体作動薬 Exendin-4 とメトホルミンの併用は前立腺癌を抑制する (論文)

福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科 研究生 堤 陽子 (27 回生)

【受賞論文】

Combined treatment with Exendin-4 and metformin attenuates prostate cancer growth



糖尿病治療では、血糖降下のみならず、生活の質改善や余命の延長を目標とした治療が望まれる。一方、わが国の 2 型糖尿病患者の主な死因は癌であり、抗糖尿病薬の癌への作用が最近注目されている。しか

し、糖尿病と癌に関する研究は極めて限定的で、抗糖尿病薬投与に伴う癌リスクへの影響を指摘するまでには十分な研究結果が世界でも得られていない。我々は、近年わが国の 2 型糖尿病治療の中心となりつつあるインクレチン関連薬の一つである GLP-1 受容体作動薬 Exendin-4 が、血糖降下作用に関係な

く前立腺癌の増大を抑制する作用を有することを見出し報告した (Diabetes 63(11), 3891-3905, 2014)。

同じく抗糖尿病薬であるメトホルミンは、抗癌作用を有する可能性がある薬剤として知られるが、本研究では、このメトホルミンと Exendin-4 は相加的に、抗前立腺癌作用を示すことを明らかにした。作用機序として両薬剤は前立腺癌の主要増殖経路の一つである ERK-MAPK に抑制的に作用すると同時に、メトホルミンは血中インスリン濃度を低下させ、AMPK の活性化を介してアポトーシスを誘導する機序も明らかにした。

## Paradoxical nocturnal elevation of sympathetic tone and spontaneous ventricular fibrillation in Brugada syndrome (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 助手 熊谷尚子 (26 回生)



Brugada 症候群 (BrS) において、心室細動 (VF) 発作の多くは安静時であることが知られるが、その自律神経バランスは十分に解されておらず、副交感神経活性との関連が報告されている。本研究では、器質的心疾患のない VF 蘇生を受けた BrS 連続 14 例 (VF-BrS 群) と、失神などの症状がない無症候性 BrS 19 例 (A-BrS 群) において臨床的特徴、12 誘導心電図 (ECG) の特徴、24 時間ホルター ECG (日中 / 夜間別解析) での QT/RR slope と心拍変動 (HRV) を比較検討した。結果として、臨床的特徴や ECG 指標において 2 群間に有意差を認めなかったが、QT/RR slope では、A-BrS 群では日中の方が夜間に比して有意に急峻 ( $0.10 \pm 0.04$  vs.  $0.09 \pm$

$0.03$ ,  $p=0.03$ ) で、VF-BrS 群では日中と夜間に有意差を認めなかった。HRV において、心拍数は 2 群とも日中に比べ夜間に有意に減少し、それらに 2 群間の有意差を認めなかったが、交感神経活性の指標である LF/HF は、A-BrS 群では日中に比べ夜間に有意に減少 ( $3.1 \pm 1.4$  vs.  $2.2 \pm 1.3$ ,  $p=0.019$ ) し、VF-BrS 群では日中と夜間に有意差を認めなかった。夜間の LF/HF は VF-BrS 群が A-BrS 群よりも有意に増加 ( $4.3 \pm 2.6$  vs.  $2.2 \pm 1.3$ ,  $p=0.021$ ) した。BrS において、特に夜間における持続的交感神経緊張が、副交感神経の急激な緊張や再分極の変時応答などに影響し、致死性不整脈の発生に関連している可能性を世界で初めて報告した。自律神経バランスに対する介入 (交感神経遮断) は、BrS の VF 発生予防の一助になる可能性がある。

## 成人発症 II 型シトルリン血症における脂肪肝は PPAR $\alpha$ の発現低下に由来する (論文)

長野赤十字病院 消化器内科 木村岳史 (28 回生)

Steatogenesis in adult-onset type II citrullinemia is associated with down-regulation of PPAR  $\alpha$



【背景と目的】成人発症 II 型シトルリン血症 (以下 CTLN2) は肥満や飲酒に関連しない脂肪肝を合併することが知られているが、その発症機構は全く不明である。今回、我々はこの脂肪肝の発症機構を明らかにすることを目的に検討を行った。【対象と方法】対象は遺伝子検査で確定診断された CTLN2 16 例である。対照群として生体肝移植ドナー 7 例を使用した。凍結肝組織から RNA・蛋白を抽出し、脂質代謝関連遺伝子の発現量を定量 PCR 法やイムノブロットなどを用いて解析した。【結果】脂肪酸輸送・活性化に関連する CD36、

FABP1、ACSL1、脂肪酸  $\beta$  酸化に関連する CPT1A、ACADM、ACOX1、リポ蛋白分泌に関連する MTTP の mRNA 発現は CTLN2 で有意に低下し、脂肪肝着量と負の相関を示した。脂肪酸  $\beta$  酸化能を反映する血中ケトン体は CTLN2 で有意に低値であった。遺伝子発現の結果とあわせて、CTLN2 では肝臓での脂肪酸  $\beta$  酸化が顕著に抑制されていることが示唆された。脂肪酸  $\beta$  酸化を強力に制御する核内受容体 PPAR  $\alpha$  は発現量・機能ともに CTLN2 で著明に低下しており、脂肪肝着量と逆相関を呈した。

【結論】PPAR  $\alpha$  の低下とその結果として生じる脂肪酸代謝異常が、CTLN2 における脂肪肝形成の主たる分子機構であった。

## 冠動脈疾患とグリコアルブミン、ヘモグロビン A1c との関連について (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 助手 則松 賢次 (31 回生)



このような素晴らしい賞をいただき、喜びよりも驚きのほうが強いというのが正直な感想です。本論文はグリコアルブミン (GA) が、HbA1c よりも食後血糖や血糖変動を鋭敏に反映する、また食後高血糖は空腹時血糖よりも冠動脈疾患 (CAD) のリスクに寄与する等の報告があることより、GA が有用な冠動脈疾患の予測因子となり得るかを評価した研究をまとめたものです。結果、GA が HbA1c よりも有効な CAD の予測因子となり、GA17.9% 未満を目標とした血糖管理が冠動脈疾患発症抑制に関してより有用である可能性

を示しました。この結論を実証するには GA、HbA1c を指標に血糖管理を行って、GA 指標群が心血管イベントを有意に抑制することを証明する必要があります。世間的に GA は認知度が低く、保険上も測定頻度に制限があるなどのハードルはありますが、いずれは前向きに検討できればと考えております。最後になりましたが、論文作成にあたって、ご指導ご鞭撻いただいた朔啓二郎教授、三浦伸一郎診療教授をはじめ、論文のテーマとなった冠動脈 CT グループの先生方、その他医局の諸先輩方、研究スタッフの方々にこの場を借りて御礼を申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 非弁膜症性心房細動患者におけるリバーロキサバンおよびワルファリン内服下での薬力学的抗凝固効果の比較と日内変動 (論文)

福岡大学医学部 臨床検査医学 大学院生 吉 峯 有 香 (32 回生)

Circadian variations in laboratory measurements of coagulation assays after administration of rivaroxaban or warfarin in patients with nonvalvular atrial fibrillation.



非弁膜症性心房細動 (NVAF) における血栓塞栓予防において、直接 Xa 因子阻害薬であるリバーロキサバンは、血中半減期や血中濃度のピークが数時間と短いにも関わらず、それらが長時間持続するワルファリンと同等以上の有効性と頭蓋内出血が少ないことが報告されている。この研究では、NVAF 計 28 例 (リバーロキサバン内服群 13 症例、ワルファリン内服群 15 症例) を対象とし、薬力学的抗凝固指標 (プロトロンビン時間 (PT)、PT-INR、活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)、プロトロンビンフラグメント

(F1+2)、プロテイン C、活性化プロテイン C) を AM6 時、AM11 時、PM3 時、翌 AM6 時に測定し、2 群間および日内変動を比較検討した。リバーロキサバン群では PT、PT-INR は、ワルファリン群と比較し 1 日を通し持続的に有意に低値を示したが、F1+2、プロテイン C、活性化プロテイン C は持続的に有意に高値であった。また、リバーロキサバン群において、血中濃度に相関する PT、PT-INR で内服 3 時間後に有意な上昇がみられた。結論として、リバーロキサバンの抗凝固などの臨床効果は、薬物血中濃度に依存しないプロテイン C / 活性化プロテイン C が高く保たれることに関連している可能性がある。

平成 29 年度 福岡大学医学部同窓会

## 研究奨励賞募集要項

**対 象**：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者  
(本学会費完納を条件とする)

**研究課題**：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究計画又は研究論文)

**申請方法**：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

**提出先**：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局  
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

**締 切**：平成 29 年 5 月 2 日 (火)

**賞状・賞金**：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

**発表及び表彰**：平成 28 年 7 月 2 日 (土)、第 35 回同窓会総会席上 必ず出席すること

**そ の 他**：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードのこと

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、  
研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もお応募ください。

福岡大学医学部同窓会

## 在外研修援助金 募集要項

### ①長期研修

**対 象**：正会員、準会員 (本学会費完納を条件とする) で医学の研究または医療技術の習得のため、  
3 ヶ月以上外国に留学する者

**申請方法**：所定の申請書により留学出発 3 ヶ月前までに提出のこと

**提出先**：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1  
福岡大学医学部同窓会事務局  
T E L 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032  
F A X 092-865-9484

**援助金**：1 件 20 万円を限度とし、年間 5 件以内

**発 表**：本人に文書にて連絡

**そ の 他**：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事

②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事賛同し、  
渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

# 烏帽子会ホームページリニューアルのご報告

広報担当理事 北 島 研 (21 回生)

2016 年春号編集後記にて広報担当理事・小玉正太教授よりご案内しておりましたように、烏帽子会ホームページをリニューアルさせて頂きました。先輩方が築いて下さったこれまでのホームページを基に、画面表示サイズを拡大し、スマートフォンや臨床現場でも使用されるタブレット端末においても見やすい画面となりました。今回の会報表紙や下の写真のようにトップページには、福岡大学医学部の表札を掲げる医学部玄関、医学部全景、及び病院入り口石碑の写真を組み込み、母校の懐かしい風景とともに新しい烏帽子会情報をお届けしています。新着情報のページでは会員の皆様への総会、学生対策の報告を行います。外来担当医表のページでは、福岡大学病院・筑紫病院・博多駅クリニックで一般に公開されている表に加え、福岡大学医学部卒業生が一目で判るように赤で色分けされた表を作成し、会員の先生が福岡大学外来へ紹介して頂く際に、より身近にお役に立てる

ことが期待されます。同窓会事業のページでは、全 18 事業の紹介とともに、今回フルカラー化された本会報が PDF ファイルで閲覧でき、当直医パニックマニュアル第 2 版はデジタルブックとして閲覧頂けます。研究奨励賞の申し込み用紙もここからダウンロードできます。同窓生の活動状況では教授に就任された先生の他、勤務・開業医の先生の活躍をご紹介します。ページも設け、グローバルに、また地域に根ざした医療を目指す烏帽子会会員の皆様のお役に立てるように努力いたします。トップページにはソーシャルメディアである facebook のページの枠を設け、同窓会事務局より小さいながらも新しい情報をお伝えできます。個人情報保護の観点より、ユーザー名とパスワードで保護されているページもございますので、以下をご参照下さい。パスワード変更の際には、烏帽子会会報の紙面でお知らせします。ご不明な際は随時同窓会事務局へご連絡下さい。

ユーザー名	eboshikai (エボシカイ) * パニックマニュアルは panic002 (パニックゼロゼロ二) でも閲覧可能
パスワード	fukudai1 (フクダイイチ)



## 平成 27 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 28 年 4 月 23 日（土曜日） 16 時
- ◆場所 天神スカイホール 16 階
- ◆出席 評議員：出席 41、委任出席 52、欠席 18  
支部長（再掲）：出席 10、欠席 9

### ◇経過報告

◆黙祷 亡くなった先生方、熊本地震で亡くなられた方々を悼み黙祷。

### ◆会長挨拶 高木会長

皆さんお疲れ様です。熊本地震で大変な状況の中、熊本県支部長の魚返先生が来られております。有り難いことです。大分県支部長の鬼木先生もこの会場に到着されていましたが患者さんの急変で急遽帰られました。宮崎県支部長野田先生、評議員の野崎先生も急遽欠席の連絡が入りました。同窓生や学生に甚大な被害がなかったことに安堵しております。

27 年度は、4 名の教授が誕生しております。平成 27 年 10 月に筑紫病院消化器内科教授に 8 回生の植木敏晴先生、平成 28 年 4 月に博多駅クリニック教授に 4 回生の仁位隆信先生、耳鼻咽喉科学教授に 10 回生坂田俊文先生、心臓血管外科学教授に 13 回生和田秀一先生が就任されました。平成 27 年 12 月には朔医学部長が再選され、大慈弥裕之教授が副学長に任命されております。

今年で 39 回生が卒業しました。会員数が 4 千人を超え卒業生の 95% が各分野で活躍しており、80 名が物故者、81 名が休業しているという状況です。

現在学部と同窓会の協力体制がとれております。学部と同窓会の関係性をきちんと構築したいと考えています。

### ◆第 110 回医師国家試験状況 安元理事

全体の合格率が 88.5%、新卒が 91.7% でした。109 回の新卒が 92.5%、全体で 88.5% でしたので前年度よりはパーセントとしては若干落ちておりますが、2 年連続で 90% を超えたところでぎりぎり良かったと思っております。

資料に今年卒業生の研修先が記載されておりますが、熊本市民病院、中央病院、済生会熊本病院に勤務し災害医療に携わっているとメールでもらいました。最初の研

修で大変な経験をしています。お近くの先生方で卒業生の研修医と会われることがありましたら是非よろしくお願いたします。

全国の平均を超えた位置に福岡大学の合格率を上げていきたいと思っています。5 年生 6 年生もそれに向けて頑張っています。入試が非常に難しくなっており、全体として学生の学力が高くなっている印象はあります。上位者は全国 100 位以内に入りますが、どうしても下の 10 名程がぎりぎりのところで不合格になってしまいます。その対策・指導をしっかりやっていきたいと思っています。

### ◆平成 28 年度子女入試状況 朔副会長

定員 110 人の内、センター利用を含めた一般が 80 人、推薦が 30 人になります。30 人の内訳が地域枠が 10 人、A 方式推薦が 20 人です。その中に大濠推薦が入ります。大濠高校のレベルが高くなっており尚且つ生徒の両親が何らかの形で医療に関係している人がかなりいるということで、大濠中学・高校の先生方に頼まれて生徒さんへの講演会を行っています。福岡大学病院メディカルホールに生徒 200 名程参加し教授 3 名が 20 分づつ講演し、生徒さんが座長になって質疑応答を行うというものです。そういうこともありまして大濠から優秀な生徒さんが入ってきています。全体的に見ますと、推薦の方が一般入試より入学しやすいようです。

### ◇議題 1. 平成 27 年度収入支出決算見込

〈事務局説明〉

[附]会費納入状況

〈事務局説明〉

拍手をもって承認

### ◇議題 2. 平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度事業計画（案）について

#### ①会報の発行 〈田野理事説明〉

毎年 2 回発行しております。正会員の増加により発行部数が増え増額となっております。61 号より写真がカラーとなります。

#### ②総会の開催 〈田野理事説明〉

総会担当学年に準備金として20万円渡しており、総会に招待する学生会員の会費負担をしております。

### ③支部活動援助〈田野理事説明〉

各支部において活発に活動されております。今年は6支部より講師招聘援助金の申請がありました。距離によって金額が違います。

#### 〈重田副会長〉

講師招聘援助金も出ますので本部からのお願いとしては、出来れば年に一度総会を開いていただき、学内の教授も増えましたので講師に呼んでいただきたいと思えます。よろしくお祈りします。

### ④研究奨励賞

〈廣瀬選考委員長の代わりとして松永理事説明〉

160万円の予算ですが、7名への授与のため若干予算をオーバーしております。7名中2名は準会員であり同窓会会員になっていただいた他学出身の先生方です。レベルの高い応募があり甲乙つけがたく7名の受賞者になっております。公平な選考でレベルも十分高い内容でした。

### ⑤在外研修援助金〈林副会長〉

27年度は応募が2名でして各教室からの留学生の数が減っています。

### ⑥学生対策〈安元理事説明〉

新入生歓迎会には上級生、学内の教員も参加し、最後にはTシャツを全員で着用して校歌を歌います。4年生はCBTの前に行っております。6年生は学内で実施される国家試験に合格した先輩の経験談を聞く「平成27年度ステップアッププログラム」という会の後、M6激励会をしていただきました。ΦBKは4年生のCBT、各科の試験、OSCEの結果からトップ10の学生に表彰食事に招待しています。成績の悪い学生さん達に補助をしていただいていたのですが、福岡大学を卒業しいろいろな所で活躍するであろう、国家試験に向けてのリーダーシップをとってくれる学生にも補助していただいております。

### ⑦白衣贈与〈安元理事説明〉

4年生でOSCE、CBT試験に合格し臨床実習に上がる学生にはStudent Doctor認定式で認定証と白衣の授与を行いました。

### ⑧国試対策費〈安元理事説明〉

国試対策は5年生を対象に8回生の牧野先生の勉強法の講義をしていただきました。丁度国試の直前で国試の予

想問題を6年生にも講義していただきました。6年生の殺気だった様子に5年生が刺激を受けていた講義となりました。国試直前セミナーへの補助もしていただいております。

また学内で直前激励会をしております。各講座の教授の先生方にも来ていただいて学食でさせていただいておりますが、その時のケーキやピザなど食事の補助をしていただきました。国試の昼食のお弁当を差し入れていただいております。

### ⑨支部祝儀贈与〈田野理事説明〉

支部発足、支部会参加費で23万円の予算を組んでおりますが、実績として福岡支部、北九州支部、佐賀支部へお渡ししております。

### ⑩学生行事援助〈安元理事説明〉

例年通り烏帽子会賞は西医体、九山において優秀な成績を納めた団体、個人に渡しております。今年は救命救急のCPR選手権大会で全国大会への代表になった学生、日本教育医学学会が行ってついでにシムリンピックで全国3位になった学生に烏帽子会賞を贈っていただいております。

その他啓明大学との交換留学の旅費負担、啓明大学生への白衣支援、謝恩会祝儀も出していただいております。

#### 〈重田副会長〉

学生対策の予算額が大きくなっています。今後も学生対策に多くの援助が必要だろうと考えています。何の為に学生へ援助が必要なのかということになるのですが、医局体制がしっかりした状況であればいいのですが、学内に残って勉強していく学生が少なくなりました。できるだけ学内に残り、スタッフとなって将来は福大を背負って欲しいという意志も含めて常々学生には話をしていますが、なかなかそうはいかない部分もあります。何とか頑張って学生対策を続けていきたいと思っています。

#### 〈朔副会長〉

特に6年生になると授業料の他に更に国家試験対策費としてご父兄に負担していただいております。予備校の対策国家試験の対策は積極的に考えてあげないと、じっとしていてもだめですね。

#### 〈山崎評議員〉

現状の手厚いサポートが徐々に実を結ぶ見込、あるいは手応えがどの位出てきているのか、一過性の可能性も十

分あり得るし、これからの取組が福大医学部全体にどのよう  
に定着していくのか、見通しや目論みがあればお知らせ  
いただくと、一会員として納得してサポート出来ると考えて  
います。

〈林副会長〉

今まで首尾一貫した流れがなかったように思います。今  
後大事なことは首尾一貫した流れを固持しなければいけな  
いことだと思います。幸い教育の基本を押さえる所に安元  
教授が居て下さっていますが、他に学部長だったり、執行  
する立場に同窓生が就く形を続けないと、ご心配されてい  
るような一時的な夢物語に終わる繰り返しになると思いま  
す。そうさせないために流れを維持することが大切だと考  
えています。今に劣らぬサポートを是非お願いいたしま  
す。

〈重田副会長〉

学内の正教授が10名おります。今が最高のピークにな  
らないようにすることが肝心だろうと考えております。そのた  
めにも同窓会はしっかりバックアップしたいと思っております  
のでご協力よろしくお願いいたします。

⑪学会寄付 〈林副会長説明〉

予算200万円を組んでおりましたが、65万円の超過とな  
りました。それは同窓の教授、特別会員の教授が会長を  
務める学会が増えたということです。今後は大きな全国学  
会や伝統ある学会を担当する同窓生が増えることは間違  
いありません。同窓会が寄付をしていることの情報が浸透し  
たこともあり寄付依頼が増えたと考えています。

⑫慶弔贈与 〈田野理事説明〉

本年度も教授就任がございまして、そのお祝いと4名の  
先生方への仏生花または弔慰金を出しております。

⑬グッズ作製 ⑭会員名簿 〈田野理事説明〉

27年度は作製しておりませんが、⑭会員名簿11号を発  
行いたしました。

⑮パニックマニュアルの発行 〈北島理事説明〉

『当直医パニックマニュアル改訂版』は26年度に発行し  
ておりますが、今年度デジタルブックにいたしましてホーム  
ページで公開しております。その制作費用を計上してあり  
ます。

⑯奨学金緊急貸与実施せず

⑰縁結び 〈田野理事説明〉

縁結びに関わる案内、申込書の諸経費、ホームページ

ドメイン料のみで特別な活動はしていません。現在の状  
況としては女性8名、男性2名の登録にて行っております  
が進展はございません。

⑱保険コンサルティング紹介 〈田野理事説明〉

活発な活動になっております。

〈重田副会長〉

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質  
問はございませんでしょうか?ないようでしたらご承認願  
いいたします

拍手をもって承認

◇議題3. 平成28年度収入支出予算(案)

事務局説明

〈重田副会長〉

同窓会予算が4千万円に近づいて参りました。同窓会  
の仕事が始める時に古い大学の先生方から言われたことが  
あります。年会費を1万円で行うと5千万円までいくと。  
我々もあと1千万円で5千万円の予算になります。それは  
我々の寿命が近づく時かなと思っております。何時まで我  
々が会費を集め続けられるかということになると思いま  
すが、4千万円まで近づいたことご理解下さい。

積立金ですが、病院の立替の際にお金を出しましたの  
で1億を切っておりますが、ようやく1億円積み立てた状  
況になりました。今後新病院の建て替えの問題もあると思  
いますのでその時には皆さんにご協力いただくことになると思  
います。

拍手をもって承認

◇シンフォニア 南さんよりリスク管理サービスに  
ついて説明

Doctorのリスクを排除して診療に専念していただくことを  
目的に運営しております。その中には二つの柱がありまし  
て一つは弁護士による無料法律相談、もう一つは保険を使  
った資金の立て方、特に相続の対策や医療法人の節税や  
お金を回す方法で一番得意としています。

今年で4年目になります弁護士の無料相談については沢  
山の相談をいただいています。弁護士も鍛えられています  
と言ってございまして実際裁判になった例もありお役にたて  
ていると思います。一番多い相談は労働問題です。問題の  
レベルはそう高くありませんが、運営上厄介なもので問題を

起こす職員の影響で優秀な職員が辞めていく事例が多くあります。辞めさせられないと思っただけである先生が多いので、黙ってらして自然と辞めて行かれたら夫婦で祝杯をあげたとの話もあります。一方辞めさせると言ってしまう大問題になったこともあります。辞めた後職員が労働組合に加入し、その労働組合から院長宛に団体交渉の要求をしてくるケースが急増しており数ヶ月分の給与の支払を余儀なくされているのが事実です。

そこで一つ対策を打たせていただこうと思います。弁護士相談は事後処理になりますので事前対策として防げないかということで、烏帽子会のリスク管理サービスに、労務問題の無料相談メニューを追加いたしました。本来社会保険労務士の業務ですが、社労士の中には労務問題をやっていない人も多く、しかも協力的な所が非常に少ないです。定評のある力強い事務所がありましたので提携いたしました。労務ジャパンの社長は、トラブルが発生しない方法で問題ある職員は辞めさせられるという立場です。就業規則を前面改定する必要がありますが、それをすると労働問題が解決すると言われております。実務経験が多いので入れていただくと、僕らの対応の幅も広がると思っております。

労務ジャパン竹下社長ご挨拶。

#### 〈重田副会長〉

事前対策は必要だということは皆さんも十分お解りだと思います。何か相談されることがありましたら利用して下さい。事業の一つの保険に関して評判も良いようです。支部の先生方にもお伝えいただけたらと思います。

#### ◇魚返熊本県支部長より熊本地震報告

医師会の集約の報告では、同窓生の中で亡くなった人はいないとのこと。一番困ってあるのは益城病院の6回生の犬飼先生です。正に震源の直上にありしかも200人の入院患者さんがいます。崩壊して水もガスも出ません。JMATがすぐ来まして転院手配しました。市民病院が全壊ですし、基幹病院としての医師会病院も外観より配管類がだめになりました。個人病院にも受け入れをお願いしないといけないう状況です。同窓生の半分が全半壊しており、スプリンクラーが誤作動してエコーやカメラ、精密機械に降りかかり診療が出来ない状況です。日赤、済生会、医療センターの3本柱が一番頑張っています。熊本は電車

も走り、バスも走っていますが、直下型のため益城に入ると道路はズタズタで、施設の広い駐車場には1000台単位で車の中に避難しており10万人近くが屋外避難しています。やっとインフラが落ち着いてきて流通が回って来ます。水が来てないガスが来てない電気が来てないというばらつきがありますがかなり落ち着いて来ました。

医療面で僕ら医師会がなにが出来るか情報を集めて評価しています。市の医師会は市内のことをまとめそれを県に上げ、県は取りまとめて日本医師会に上げて国に上げるというシステムですが、今出来ることは何かということで市の医師会は手が空いていて体力に余裕がある先生が動いています。DMAT・AMAT・Psychologistの先生方も含めてうじゃうじゃしています。それとこの辺りでは見えないと思う火事場泥棒がうろろろしています。治安は少し良くないですが、幸いなことに西部方面隊第8師団という大きな自衛隊が丁度益城と東区の間にあつたので、5分で出動して初動の立ち上げが非常に良かったです。

九州管内、関西他沢山の市からの医療関係者、消防隊員、警察官がいっぱい溢れています。どこに具体的に効率よく配置したら良いのか、やっと見えてきたというところ。我々は2〜3日飯食わんでも大丈夫ですが、入院患者さんを持っておられる先生方がとても苦労してあるのが現状です。後は日赤、済生会、医療センターが眠らずにどんな患者でも受けるとやっていますので大丈夫と思えます。

同窓会で何か出来ることはないか?と会長副会長が仰いましたが食料面では困っていません。ただ、余震が続いており3〜5の震度です。さすがに震度5が来ると怖い。ご存知のように2回大きく揺れました。1回目が終わったかなと片付けた後に本震が来ましたので、片付けた物が全部引っ繰り返りました。戦意喪失するわけ。収束する目途さえついていない為皆さんPTSDの様になって、むしろこれからそういう基礎疾患を持った人や、PTSDの人をフォローしていくことが重要な状況です。もしかしたらDMAT・AMAT・Psychologistの先生方沢山おられますが、同窓会から専門性のアドバイスが必要な状況になりましたらこちらから連絡させていただきますのでよろしく願いいたします。

#### 〈重田副会長〉

ありがとうございました。何が出来るか状況をお聞きしま

して、それから出来ることがあればやっていきたいと思っています。同窓会としても被害状況を取りまとめたいと思っています。支部の先生方には状況が解りましたら、どんだん事務局へ報告をお願いしたいと思っています。

#### ◇議題 4. ホームページ 北島理事説明

ホームページリニューアルの経緯をご報告いたします。烏帽子会のホームページは10年前に作成されほとんどリニューアルされておりません。細かい事業内容については随時アップデートしているつもりですが、全体的に古くなってきたことや、スマートフォン等の使用が多くなりましたのでその対策が必要になってきました。また、パニックマニュアルのデジタルブック公開などこれからホームページを多く利用することになりますのでこの機を利用してリニューアルとさせていただきます。会社は以前と同じエムホールドです。会社選定においては他社も検討し、デザイン・予算の見積を出していただき理事会で協議評決した結果エムホールドさんに引き続きお願いすることになりました。

スライドを利用してホームページ説明。エムホールド社3名自己紹介及び説明。

##### 〈重田副会長〉

ホームページの内容ですが、会報の発行や総会の開催は恒例の事業ですから問題はないのですが、これから力を入れれないといけないのは同窓生の活動状況です。皆さんが一番利用するのは学内の同窓生の状況だろうと思います。誰が新教授になったか、誰が教授・准教授・講師か、誰が外来担当なのか、卒業生が大学の中でどういう仕事をしているのかを載せないといけないと思っています。問題は学外の卒業生の状況です。これをどこまで載せていくか。

今一つの案として出ているのは、医師会の役員の方は皆載せたらどうかという話です。学外の教授は解り易いのですがそれ以外で対象をどうするか、今後理事会で検討していきたいと思っています。

##### 〈山崎評議員〉

情報の更新の管理をどうするかとても大切だと思いますが、今後の更新については誰が担当するのでしょうか？

##### 〈北島理事〉

当面は私と事務局で対応させていただきます。

##### 〈重田副会長〉

ホームページの問題はそこが一番大きいですね。頑張ってみようと思います。学外の卒業生につきましては理事会で話し合っ決めていきたいと思っていますのでご意見があればお聞きしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

#### ◇議題 5. 福岡大学博多駅クリニックについて

##### 〈大慈弥理事・副学長〉

2016年4月21日に福岡大学博多駅クリニックが開院いたしました。母校である学校法人福岡大学は80年を超えました。現在は750億位の規模収支で動いております。80年の間に随分大きな規模になりました。しかし、現在、福岡大学は危機的状況といえます。少子化と高齢化の問題です。2018年問題あるいは2025年問題が言われていますが、大学では定員の締め付け、病院にとっては病院間の競争です。残念ながらその競争力がおちている状況です。

これは根源的問題があり福大の体質が問題でした。予測される課題に対して今まで上手く対応が取れていませんでした。リスクを恐れ改革できない文化があり前向きな事業改革がなされていませんでした。大学としても新学部はありませんし、医療系の事業でも筑紫病院以来30年間新しい事業がありませんでした。関東や関西の私立は第2第3の病院を開拓している状況です。現在のように激動でグローバル化の時代に何もしない無為無策というのは敗退を意味します。文系理系とか医学部その他で内部対立している場合ではありません。昨年の12月に薬学部出身の山口先生が学長になられ、アクティブ福岡大学を標榜し積極果敢に新事業を展開する体制ができました。チーム一丸となって努力して成功に導くことが重要だという意味がアクティブ福岡大学です。

今回の福岡大学博多駅クリニックというのがその嚆矢となるような事業の一つです。前執行部が決めたことですが、新執行部も十分理解協力して行こうということが決定されました。また幸い両病院も全面的に支援していただき、メディカルクリニックの先生を中心に意思統一がなされました。

4月21日に開院しましたが、幸い地の利を得ていますしメディアも大変注目してしまっていて、特に女性医療に注目されています。しかし、非常に家賃も高いというのも現実で

して赤字だといろいろな人に言われますがそう言っても詮無いことでして、我々はスタートしたからには成功の道を探ることが重要です。施設の魅力を如何にアピールするか、質と満足の高い医療を提供することに今から専念していきたいと思っています。医師会からの反対もありましたが3回にわたり懇談会を開き地域との話し合いもしました。理解をしていただきました。パイを取るのではなく棲み分けをしていく、福大の予防医療、先進医療を向上する内容をやっていく、そのうち医師会に役立つような事業、国際医療だったり検査外来など、だんだん理解していただき解っていただいで随分反対が減ってきました。

今回は、同窓会の厚い支援が非常に大切だということで報告させていただきました。地域との説明会には沢山の同窓生が来てくれていろいろなレベルで理解をいただき支援をいただきました。今後とも是非ご支援をいただきたいと思っています。

#### 〈仁位福岡大学博多駅クリニック診療所長〉

スライドを利用して説明。

博多駅の博多口に隣接されています KITTE 博多ビルの8階にクリニックがあります。勿論一般医療も行いますが、女性医療、HAL・運動療法、専門外来、国際医療を行います。女性医療エリアは多彩な医療を展開し、女性専門医による診療を行い、女性専用のフロアになっています。診療によっては5月9日から受付開始です。常勤の科と大学からの派遣の科とありますので全て予約制としています。HAL (Hybrid Assistive Limb) は、筑波大学工学部教授の山海先生が開発したりハビリ装置です。筋肉を動かそうとする時に発生する微弱な生体電位信号をキャッチし、モーターを使ってロボットが動くという仕組みになっているそうです。運動療法は福岡大学スポーツ科学部と連携し、運動療法や一般の人の健康増進等の催しなど立地条件の良さを生かしてやっていきたいと思っています。

博多駅周辺は天神地区より外国人が多く、生じる問題や対応に地域医師会も苦慮しているとのことで現在国際医療の実施のあり方を考えているところです。専門外来は福大病院、筑紫病院からも応援をいただき予約診療の予定です。診断ないし今後のアドバイス、セカンドオピニオンを行う予定です。フットケア外来、物忘れ専門外来も予約制で立ち上げます。画像検査外来も設けており、博多駅周辺の開業医の先生方が対象になると思いますが、患者さんを

紹介していただきCT検査画像がお手元のPCで見ることが出来るシステムを導入しております。

博多駅クリニックの責任者になりますので同窓の先生方にはご支援ご協力をお願いいたします。

#### ◇朔医学部長より学内状況について

スライドを利用して説明。

大学がどのように変化しているかお話ししたいと思います。福岡大学は82年経ちました。

新しい病院は僕らが入学した当時池だった場所に出ています。一年半前に出た記事ですが、上場企業の人事担当者が選ぶ大学ランキングの中で「対人力」の項目で福岡大学がNo.1になっています。コミュニケーション能力が高いという評価ですね。さて、OSCEは学生さんが一人ずつ各部屋に入ります。皆礼儀正しく態度や診察力が高く評価されています。4年生から5年生に進級する時、白衣授与・Student Doctor認定式があり一人ずつに認定証を渡しています。式典には教授も来てくれますし、同窓会OBの先生も必ず6～7名来ていただいています。この白衣は同窓会が作っていただいております、かなりの金額になります。全員白衣を着てヒポクラテスの誓いを宣誓します。保護者も沢山来られます。先程説明がありましたΦBKですが、これは外国でよくやっていますが、成績の良い学生さんを集めて教授と食事をします。一番いいレストランに連れていきノーベル賞Dinnerの様に横一列で食事をします。病院長にも来ていただいています。父母会の時に、「このDinnerにどうしても行きたいんだ」と子どもが言っていると親御さんから聞くこともあります。また保護者からお礼の手紙が学部長室に届きます。同窓会の意味がここにも出ていると私は思っています。本当にありがとうございます。

これも同窓会から支援していただき国家試験直前激励会(ケーキパーティー)を開催しています。学内の先生方が参加して激励の言葉を述べてくれます。国家試験中お弁当配りに行きますが、4年生5年生も手伝ってくれます。学生さんが出てくるのを見ると涙が出てくるような気持ちになります。顔は笑ってますが心は泣いています。と言うのは泣きながら出てくる学生もいますから……。それが終わったら卒業式です。全体の卒業式の後、医学部の学位記授与があります。僕らの頃と比べて卒業式も華やかだし、男性

も羽織袴姿が多く皆さん美しいですね。福大医学部の伝統ですが、卒業生が一人ずつレッドカーペットを歩きます。両脇には沢山の在学生在が待っていて学生控え室もいっぱいで見えない程です。これが福大の特徴ですね。こういうものは良い伝統にしていきたいと思います。入学式ですが応援団やチアリーダーによる歓迎セレモニーがあり、最後ロケット砲で新入生を祝福していました。今年の入学総代はうちの医局員で卒業生の長男さんでした。私と大慈弥先生は壇上に座っていましたが、非常に立派で孫が発表しているかのようでした。

タイの留学生や啓明大学の交換留学生が来たり、「運動は薬」というタイトルで当時M4の学生さん、患者さん、患者さんの家族まで一緒になって運動をして読売新聞にも掲載されました。医学部は受験生に対して非喫煙を呼びかけています。インターネットで93,000件ヒットしました。日本で初めて医学部で喫煙を打ち出したのですが、こういったのも一つの特徴です。入学式の時に成績優秀者へ皆の前で賞状を渡しています。するとモチベーションも高くなります。昨年は韓国の啓明大学と交換留学を続けていますが、国際シンポジウムをさせていただきました。その時に同窓会から多額の寄付をいただきました。本当にありがたいです。

今日は、皆さんに医学部の活動の中にどのように同窓会が協力していただいているのかお知らせしたくお時間いただきました。ありがとうございました。

#### ◇議題 6. 第 18 期役員会長推薦 事務局報告

〈重田副会長〉

現会長の高木先生が立候補されております。烏帽子会会長は、評議員にその資格があります。役員現理事評議員の中から自薦他薦をもって会長を選ぶという方法です。現在現会長が立候補されております。高木忠博先生を第18期に同窓会会長に推薦するということにご意義なければご承認をいただけますでしょうか？

拍手をもって承認される

〈高木会長〉

ご推薦いただきまして本当にありがとうございます。同窓会と学部ががっちり組み合った形、代が代わっても継続できる形を任期中に作る努力をして参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### ◇議題 7. 決算評議員会省略の件

拍手をもって承認

#### ◇議題 8. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会 第 35 回総会案内

佐光英人先生より説明あり

原案通り承認

日時 平成 28 年 7 月 2 日 土曜日

場所 ソラリア西鉄ホテル

17 時より総会、17 時 45 分より講演会を予定しております。特別講演は根岸由起枝先生をお招きして「アンガーマネジメント～怒りと上手につき合おう～」を予定しております。根岸先生は、営業職から立身され現在は人と人が触れあうことによる摩擦について、自己啓発セミナーなど催しておられます。選任につきましては廣瀬教授にご尽力いただきました。

19 時より懇親会を予定しており簡単な催しものを予定しております。先生方におかれましてはご多忙中とは存じますが、同窓の先生方を是非誘っていただきまして会を盛り上げていただければ助かります。よろしく願いいたします。

〈重田副会長〉

頑張って総会よろしく願いいたします。これもちまして平成 27 年度評議員会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

## 学会開催報告

第70回NPO法人日本口腔外科学会学術集会の  
開催報告と御礼

福岡大学 医学部 医学科 歯科口腔外科学講座 教授 喜久田 利 弘

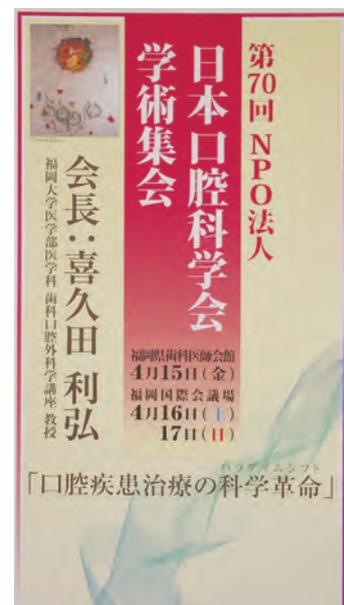
日本医学会の第31分科会の日本口腔科学会第70回総会を2016年4月14日から16日まで、福岡国際会議場を主会場として開催致しました。3日間の会期と同じくして「平成28年熊本地震」が発生しました。2度にわたる大きな揺れと数えられないほどの余震を感じ、一時は開催を中止するか否かの迷いもありました。反面、来福されていた役員や会員の方が多くおられましたので、御意見を伺い予定通りの開催とさせていただきます。

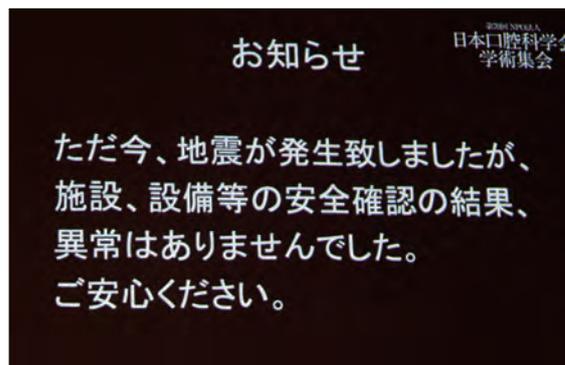
熊本を中心とする今回の大地震の被災された方々には心よりお見舞い申し上げ、可及的速やかな終息と復興を祈念いたしました。また、本学会の運営にご協力いただきました多くの皆様にあらためて深く感謝申し上げます

今回の大会テーマは「口腔疾患治療のパラダイムシフト」とし歯科・口腔の臨床や基礎系、医療工学系、解剖学系など、どうすれば「口腔疾患治療」の質を向上させ、全国で同等で高いレベルの医療を継続できるのかといった関連な情報交換を目指しました。特別講演では、朔啓二郎先生（福岡大学医学部長、心臓・血管内科学主任教授）に「齲蝕と心臓病：ビッグデータから考える」、亀井味楽先生（高取焼味楽窯

第15代当主）には「日本の伝統と革新の心；匠の葛藤」についてご講演いただきました。学術講演では、立花克郎先生（福岡大学医学部医学科 解剖学講座教授）に「口腔疾患における超音波医療機器の将来」、森山茂章先生（福岡大学工学部機械工学科教授）に「生体関節と人工関節のトライボロジー」のお話を頂くなど多岐に渡る内容でした。その他、理事長講演、7つのシンポジウム、一般演題、ランチオンセミナー、市民・県民公開講座といったプログラムを実施することができました。また、16日の市民・県民公開シンポジウム「広域災害時の歯科医療体制について」では、熊本大学歯科口腔外科学講座の中山秀樹教授にライブで震災直後の現状報告をしていただくこともできました。学会参加者数は震災の影響もあり、例年より少なくなりましたが、参加いただいた先生方からは大変ご好評を賜り、安堵しているところでございます。

この度は、福岡大学医学部同窓会の皆様の多大なるご援助とご協力を賜り、誠にありがとうございました。この場をお借りいたしまして、心より厚く御礼申し上げます。





## 第59回日本形成外科学会総会・学術集会 開催報告

福岡大学医学部 形成外科学講座 主任教授 大慈弥 裕 之 (3 回生)

このたび、第59回日本形成外科学会総会を私たちの教室で開催させていただき名誉をいただきました。

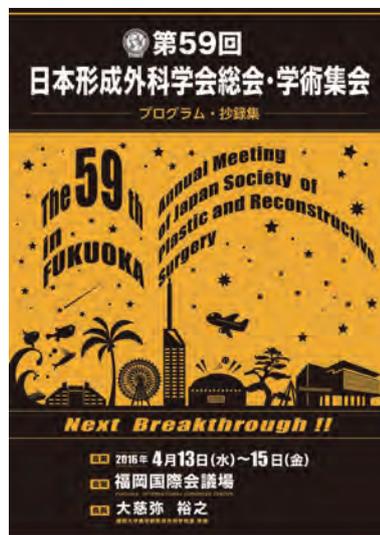
形成外科は、創造と革新を求め続ける医学分野です。本学術集会は、1958年に第1回が開催されて以来、60年近い歴史が刻まれてきました。その間、各種再建手技の開発、マイクロサージャリー、頭蓋顎顔面外科、再生医療など、いくつものBreakthroughが報告され、医学の発展に大きく寄与してきました。そこで、今回は「Next Breakthrough!!」をテーマに、歴史を踏まえ次のブレイクスルーを探る機会としました。

今回の特別企画としては、国際美容外科学会との合同シンポジウム、南デンマーク大学公衆衛生学双子研究・加齢センターのKarre Christensen教授による「見た目老化の生物学的意義」講演、作家 佐

藤智恵氏による「失敗力：ハーバードが教える一流のリーダーの条件」、ソフトバンクホークスの秋山幸二前監督による「指導力：プロから学ぶ人材育成」などを開催しました。いずれの会場も人気が高く、立ち見がでるほどでした。

ソーシャルプログラムでは、二日目の夕方に海の中道で、博多の黄昏を背景に会員懇親会を楽しみました。精神科の川崎弘詔教授によるジャズ演奏、テルベルトグリーンによるフォークソング、医局員によるバンド演奏を楽しみながら、九州の美味しい食事を満喫しました。

学会参加者も3,000名を超え、過去最高となり、楽しく有意義な学術集会となりました。同窓会の皆様には多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。





## 第8回日本子ども虐待医学会学術集会

福岡大学病院筑紫病院 小児科 教授 小川 厚 (6回生)

謹啓

時下、烏帽子会会員諸兄におかれましては益々ご隆盛のことと御慶び申し上げます。また日頃より、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さてこの度、第8回日本子ども虐待医学会学術集会を平成28年7月23、24日に福岡大学病院福大メディカルホールにて開催させていただきました。

今回の学術集会では主な内容として7月22日(金)プレコングレスを15時から医療機関向け虐待対応プログラム:BEAMS Stage1 講習会(1時間)、16時からBEAMS Stage2 講習会(1時間30分)、その後会員限定の事例検討会を2時間30分で行ないました。

続きまして本学会を7/23(土曜日)9時から開始しました。主な内容は2つの特別講演と、2つのパネルディスカッションです。特別講演1は「法医学から小児虐待を考える: 損傷の診かたから死因究明制度まで」と題して福岡大学医学部法医学教室教授 久保真一先生に御講演をいただきました。また特別講演2は「子ども虐待対応における小児医療の原点とは?」と題して本学会の会長である北九州市立八幡病院院長: 市川光太郎先生から御講演をいただきました。また、2つのパネルディスカッションですが、パネルディスカッション1は「虐待医療ネットワーク事業の現状と課題」と題して行なわれ、基調講演を「我が国における児童虐待対策」と題して厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 虐待防止対策推進室 室長の竹内尚也様にご講演いただき、ついで熱心な討議が行なわれました。パネルディスカッション2は

「小規模市町村における子ども虐待予防活動」と題して福岡大学医学部6回生の井上小児科医院: 井上登生先生にコーディネートしていただきました。また閉会後にAHT(虐待による頭部外傷)研究部シンポジウムを開催致しました。23日の夜には100名の参加をいただき、タカラホテル福岡において会員懇親会を開催致しました。

本学会の総参加者数は296名であり、Beams1参加者33名、Beams2参加者37名、事例検討会93名、AHT研究部シンポジウム96名の参加をいただき、大成功のうちに終了致しました。

本会の主旨にご賛同頂き、烏帽子会より多大なるご支援ご協力を賜り、心より感謝致します。ありがとうございました。

謹白

平成28年9月吉日



## 第 86 回九州眼科学会開催報告

福岡大学医学部眼科学 事務局長 佐伯有祐

この度、アクロス福岡におきまして福岡大学医学部眼科学教室 内尾英一主催で2016年5月27日から5月29日にかけて第86回九州眼科学会を開催させていただき盛会裡に終えることができました。開催にあたり、烏帽子会会員の皆様には多大なるご援助を賜りまして誠にありがとうございました。この誌面をお借りして心より深く感謝を申し上げます。

まず初日、5月27日は学会長の開会の挨拶からはじまり、一般演題から第32回九州緑内障カンファレンスを経て、島根大学眼科学教室教授大平明弘先生に特別講演「網膜疾患における黄斑色素の役割」をしていただきました。また同日の19:30よりグラナダスイート福岡にて懇親会を催しました。

二日目、5月28日の午前の目玉として第49回眼臨床病理組織研究会を開催しました。午後は九州大学大学院医学研究院眼科学教授園田康平先生による特別講演「網膜線維化が関与する病態とその制御」を講演いただきました。その後もシンポジウム「角膜を取りまく問題へのチャレンジ」等、多数の一般演題において活発な議論がなされ、盛況のうち閉会となりました。

三日目、5月29日は九州ブロック眼科講習会、九州眼科医会従業員教育講座が開催されました。日曜日であり、前二日とは違った開業医の先生方やそのスタッフが多く参加され、大変なにぎわいがありました。

最終的に全参加者数は延べ550人、一般演題数が67演題と、近年類をみないほど多数の参加人数で、また学会発表がおこなわれた九州眼科学会となりました。さらに特筆すべきこととして67演題中、九州外からの発表が18演題を占めており、全国学会としての役割を果たすことができたのではないかと考えております。しかし多数の一般演題・セミナー・講演によりスケジュールがかなりtightなものとなっしまい、十分な討論などができなかったのではないかとこの点を反省しております。

最後になりましたが本学会を開催するにあたりご尽力をいただきました烏帽子会会員の皆様、福岡大学眼科学教室同門の皆様には心より御礼申し上げますとともに、烏帽子会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



## 学生対策報告

# 啓明大学での交換留学を終えて

中 田 安 香 (M6)

2016年5/8から5/21の2週間、“KEIMYUNG-FUKUOKA BSL EXCHANGE PROGRAM”として韓国、大邱市にある啓明大学へ短期留学を行いました。このプログラムは今年で11年目を迎え、これまでも多くの先輩方が参加されています。プログラムでは2週間の留学期間のうちBed Side Learningとしてほぼ全ての科から2つの科を選択することができます。私は1週目に形成外科、2週目に循環器内科を選択しました。

1週目の形成外科では毎朝の病棟回診や抄読会に参加し、その他外来見学、手術見学、美容形成専門のクリニックへ行き美容形成手術の見学を行いました。病棟はほとんどが大部屋でベッドが6つあり、テレビは1台、少し狭い印象を受けました。外来での見学はその場での処置が多く、実際に皮膚生検の手技をさせて頂きました。抄読会では1度に4～5つのトピックスをすごいスピードで行っており、発表も多くの医学英語が使用され、臨床の現場でも英語のレベルの高さを目の当たりにしました。手術見学では眼底骨折や鼻骨折、デブリードメント、皮膚移植の症例を見学しました。また、大学病院でも美容形成外科の手術を行うとのことでしたが、啓明大学のある大邱市には数多くの美容形成外科クリニックがあり、その一箇所に見学に行く機会を頂きました。そこではフェイスリフトと鼻中隔延長術を見学したのですが、普段大学病院での実習でほとんど見る事のないcosmeticの手術を見て、あまりのスピードに驚きました。また、患者は中国の方で術中にも通訳が術場におり、術中の目の開閉などの指示をタイムリーに訳しており、興味深かったです。昨今は中国からの患者がすごく多く、このように通訳が同伴することはよくあるということでも印象的でした。

2週目の循環器内科でも毎朝のカンファレンスと回診に参加しました。韓国の大学病院では一つの科ごとに多くのprofessorがおり、循環器内科にも8人のprofessorの先生がいらっしゃいました。そのため、

回診は先生ごとに1日に何度か行われており、日本と大きく違いました。その他、実習中は心臓カテーテル室にて冠動脈造影やカテーテルアブレーション、除細動器の植え込みなどを見学しました。どの症例もprofessor自ら、現病歴から病態、必要な治療を全て丁寧に説明して頂き、とても勉強になりました。

実習以外の時間には啓明大学の学生達が様々な場所に連れて行ってくれ、お酒を飲みながらたくさん話を話しました。例えば、最も気になっていたことの一つ、徴兵制について。韓国の男性は19歳～29歳の間に2年間の兵役に行かなければなりません。彼らは医学部生としてそのことをどう考えているのか。韓国のアイドルが徴兵を免れた旨の報道を見たことがあったので、同様に、仕方なく嫌で行くのかと思っていたのですが、医師の場合は少し状況が違って、答えは意外なものでした。医師が兵役に行くタイミングは3パターンあり、①国家試験に合格後②インターン終了後③レジデント終了後、一般的には②のインターンの終了後に行く人が多いようです。その中で兵役中の医師のポジションとしてはインターンを終えて行った場合は中尉、レジデント終了後は大尉として就きます。そこで最初の1ヶ月は訓練所に行く必要がありますがその後は朝出勤し、夕方退勤の毎日だそうです。1週間のうち2日しか帰宅できないこともある韓国の研修医の激務からしたらゆっく家族と過ごせる貴重なタイミングでもあるといえます。また中尉や大尉と言ってもその間は軍病院にて医師として働くため、キャリアや技術的なことはブランクにならないようです。これらのことを総合して多くの医学生が徴兵に対してネガティブな印象を持っているには感じませんでした。その他、兵役に従事する代わりに3年を軍医官として農村地区で医療に従事する公衆保険医も存在し、これにより僻地医療での医師確保を図っているようです。

日本には全くない仕組みに驚くと同時に、説明してくれた彼らが自身の国の仕組みをよく理解し、それ

に対しどう思うか、はっきりとした意見を持っていることに少しうらやましさを感じました。その上で私自身、日本人としてのアイデンティティについて考える機会にもなりました。

その他にも毎晩時間が足りなくなる程多くのことを教えてもらいました。マッコリは雨の日に飲むお酒であること、韓国の年功序列文化について、美容形成に対する価値観、同世代の彼らの宗教感。その中で、例えば一つ政治の話をするにしても“違う国の人間”であること以上に“同じ医学生”であるという連盟感ゆえに、ある意味タブーと思われがちな話をする上で、よりディープに意見交換することが出来たように思います。この経験は旅行ではきっと手に入らない

であろうし、何よりこのプログラムを通してそういう話のできる多くの“仲間”ができたことが心から嬉しいです。実際に他国で自分の目で見て聞いてみると新しい発見があり、意外性に驚き、毎日学びの日々でした。そしてこの経験を噛み締めながらこれからの勉学により一層精を入れ、“仲間”達に負けないように励んでいきたいと強く思いました。

最後に、このような貴重な機会をくださった全ての方々に感謝し、今後も KEIMYUNG-FUKUOKA BSL EXCHANGE PROGRAM の継続を願い、後輩達にも是非とも素晴らしい体験をして頂きたいと思えます。



## Keimyung-Fukuoka Universities Medical Student Exchange Program for BSL 2016.5.8 ~ 2016.5.21

後藤

M6BSLの一環で、今年5月に韓国の大邱市に位置する啓明大学にて2週間のBSL交換留学プログラムに参加しました。M5でBSLが始まって以降、医師にはどうしても英語が必要であると様々な場面で痛感しました。以前から、韓国の医学教育は英語と

均 (M6)

韓国語を併用しておりほとんどの医師や医学生は英語に堪能だと聞いていました。このプログラムを通して、少しでも英語漬けで異国の環境に身を置いてみたいと思い参加しました。

私は実習先として1週目に眼科、2週目に小児科

を選択しました。

韓国の学生の間で人気のある診療科は眼科、皮膚科、整形外科など、いわゆる日本で言うところのマイナー科です。主な理由は労働時間で、激務を極めないところに魅力があると学生は考えているそうです。逆に心臓血管外科や脳神経外科などは、その科自体の魅力を凌駕してしまうほどの激務だそうで、問題となっていることも教わりました。全員が希望通りの専門へ進むことはできないので、学生時代の成績が非常に大きな意味を持つそうです。その話を聞いていたからか、眼科の先生方が皆大変優秀そうに見えました。眼科では数多くの先生方がレクチャーを設けて下さり、また私にも1週間の所感をプレゼンする機会を頂きました。忙しい1週間でしたが、非常に充実感がありました。

小児科では、主に内分泌疾患と血液疾患を扱うチームに就きました。珍しい疾患を多く見る事ができましたが、先生方がとにかく忙しそうであり啓明大学の5年生と共に多くの空き時間を過ごしました。2週目は特に放課後が充実していたように思います(笑)

2週間のBSLを通して、実習の内容自体にはさほど福大との違いは感じませんでした。見学型が多く、実技よりも座学の知識が主体でそのレベルにも特に差は無いように思いました。やはり、学生間の最も大きな差は英語力でした。これまで私は、医学生に限らず韓国の若者は皆英語に堪能なのだと思っていましたが、医学生に関しては総じて皆堪能というのが実際でした。私自身も含めて、福大の学生で英語を話すことに苦手意識をもつ人は多いと思います。悔しさ



もあり、今後少しでも彼らに追いつかなければと強く思いました。

今回このプログラムに参加して、もちろん新たな医学的知識に関する学びがありました。最も印象的なことは異文化というものについてです。私はこれまで韓国のことを、日本と近くて似ている国だと勝手に思い、他方で正直若干の偏見も持っていました。もちろん似ている部分も多いですが、やはり外国です。上手く言えませんが、お互いに自分たちの文化や考え方に無理に当てはめようとした時、「理解できない」と感じていたのではないかと今回思うようになりました。韓国の学生や先生方、町で出会った人たちは皆本当に親切でした。少しではありますが、韓国という国のことを理解できたのではないかと思います。今回出来た繋がりを今後もずっと大事にしたいと思えますし、出来る限り多く後輩の皆さんにもこのプログラムに参加して欲しいと思います。

最後になりましたが、このプログラムを担当して下さった臨床検査医学講座の松永先生、永島さん、韓国への付き添いをして下さった生理学講座の井上先生、沼田先生、心臓・血管内科学講座の三浦先生、プログラムの費用面等を援助して下さいました烏帽子会の皆さま、そして2週間を共に過ごしたM6の交換留学メンバーに心から感謝致します。一生の思い出となりました。本当にありがとうございました。



## 平成 28 年度 烏帽子会主催 福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて (緒方健一先生、赤ひげ大賞受賞おめでとう)

福岡大学医学部 病理学講座 教授 竹 下 盛 重 (3 回生)

2016 年 9 月 2 日 (金曜日)、天神ホテルモントルーにて M4 年生 90 名、M4 主副担任 4 名、M5 年生 9 名、M3 年生 1 名、烏帽子会員 20 名とともに M4 激励会を行いました。今回も M4 年生の出席が 90 名近を超えました。M5 年生 M3 年生にも来ていただき、出席者は有意義であったと思います。

初めに本学 6 回生であり、今年 1 月日本医師会赤ひげ大賞(全国で 5 名が受賞)を受賞されました緒方健一先生に講演をいただきました。緒方先生は熊本市内で小児科、内科を開業されております。話の内容は、医師会誌にも出されておりましたが、地域の呼吸管理が必要な患者様のケアです。地道に患者さんの QOL、そして家族の負担軽減のため、医院、患者の自宅で呼吸管理を支援する仕事の内容でした。現在は宿泊施設を作り、患者、家族の方々の負担軽減、教育等を行い、熊本地域の医療機関とも連携しネットワークも構築しています。また、今年 4 月に大きな熊本大地震があり、不測な事態に対する適切な対応等も話していただきました。私のように大学で医学教育に携わっているものには考えが及ばないその仕事内容、患者、家族の皆さまへのケアと配慮を聞き、愕然としました。ここまで無私な緒方先生に頭が下がる思いでした。学生たちも少し内容を把握して

いないようでしたが、年齢を重ねていくうちに分かってくれるのではないかと思います。数人の学生が緒方先生とお話し、施設の見学に行くことが決まった様でした。

講演会の後は、七隈祭医学部委員長である安心院勇佑君が司会進行役となり、懇親会が行われました。その中で、M5 年生の宮崎稚子さんが、今年の 3 月にモロッコ、フェスでの病院見学の話をしてくれました。他国の医療事情やいろんな国の医学生と友人になり、よい経験と思います。来年もここで話をしてくれる学生が多く出てくることを期待しております。また、主副担任の立花克郎先生、副担任の先生方、OB の方々よりこれから CBT、国家試験をパスしよい医師になる M4 年生に有益なアドバイスをいただきました。最後は全員で校歌斉唱を行い終わりとなりました。

昨年同様 M5 年生が 9 人来て頂き M4 年生には良い機会ができました。本会が学生主体を趣旨として会話できる場、身近なことの報告ができる会になっていけば良いと思います。M1、M4、M6 年生でこのような学生の会を続けることが大きな歴史となり、福岡大学医学部の興隆期を形成していくものと思われます。



講師の緒方先生



講演会

## 熊本阿蘇地震における小児在宅医療への関係者の対応

熊本小児在宅ケア・人工呼吸研究会  
医療法人おがた会 おがた小児科内科医院 緒方健一 (6回生)

今回の熊本阿蘇地震では、多くの方がお亡くなりになりました。ここに哀悼の意を表すとともに、全国からの物資や人的ご支援に対し、厚くお礼申し上げます。

熊本地震は、震度7以上が2回、震度3以上が330回余震が1400回/月の地震で現在も続いている。

我々は、1999年の大型台風を経験し、小児在宅人工呼吸療法の環境を整える目的で、熊本小児在宅ケア人工呼吸療法研究会(熊本HMV:救急隊や行政を含めた多職種連携の会)を2000年に立ち上げた。

本研究会で、阪神、東北大震災の事例に学び、障碍児(者)の死亡が健常者の2.7倍だったこと、3日間生き延びれば助かった例が多かったことなどが分かった。そのため、在宅人工呼吸療法患児の災害時対策に努めてきた。しかし、避難先の決定が主で避難方法が。そのため、避難に難渋した例があったが、幸いにも1人の犠牲者を出すこともなく避難と帰宅支援が出来た。今回の我々の熊本地震での活動報告をさせて頂く。

熊本地震における我々の活動は、1)地震発生直後(電源確保と安全確保のための病院避難)。2)物流再開後の支援物資の管理と救急施設復旧。3)帰宅支援の3ステージに分けられる。

熊本県は、毎年台風被害を受けている地区である。したがって、HMV患児が電源確保のために避難する先(医療機関)は決まっている。また、東北の震災を経験された田中総一郎先生に指導を仰ぎ、発電機貸出などの準備を行っていた。一方、当院などの短期入所施設へ通所している児が多く、出かける準備を日常していたことが素早い避難を可能とした。出かける準備を繰り返すと、避難訓練となることが分かった。

今回の地震での小児医療への影響で問題となったことは、熊本最大の周産期センター(熊本市民病院)や小児初期救急拠点施設(医師会病院)が大きな被害を受け、県の小児病床数の約3割が無くなっ

た事である。NICU/GCUの18/24床が無くなった影響は大きかった。また、小児初期救急は、日赤病院と医師会病院が小児初期救急拠点病院として担当している。今回医師会病院が使用不能となった。その結果、日赤病院の災害トリアージ現場へ発熱の乳児が押し寄せて、現場が混乱した。そこで、偶然にもD-MATの鶴和先生に連絡がつき、自衛隊に仮設診療所を設置して頂くことができた。医師会館駐車場に、給水車付き仮設診療所が数時間で設置され、混乱を収束できた。これを契機に大学の医局を中心とした基幹病院や在宅医療の代表者が集まり情報交換をメールや会議で行った。人的サポートを互いに行うことで地域での小児医療体制の維持が可能となった。

支援物資は、交通が遮断され3日間は届かなかったが、交通が回復すると溜まっていた支援物資が大量に届いた。芦北医療センターの松葉佐先生に依頼し、江津湖療育園に備蓄センターとなっていただき、支援物資の一覧表を作り各施設が必要な品を依頼することで必要などころへ必要なものを届けることができた。

一方HMV児の帰宅に際しては、長引く地震が何時収束し帰宅できるか判断が難しかった。当院が関係する39名のなかには、被害が深刻であった益城地区の患児も含まれている。しかし、訪問リハビリや訪問看護師が各家庭と頻りに連絡を取り合い状況を把握していたので、必要物資の供給や帰宅支援が機能した。

地震による混乱の中で、医療ケアが軽度の気管切開や胃瘻だけの児たちが、車中泊や避難所に居たり実態が掴めずにいた。そこに、日本財団をはじめ多くの医療関係者や福祉行政の方々の力により組織として支援が可能になった。このように、日本全国からのご支援で、困難な状況の中で多くのことが成された。

### 今後の計画

日本財団や熊本県・市と協議の結果、熊本市の北と南に小児在宅医療の拠点を作り、熊本大学医学部に新設される小児在宅医療寄付講座と連携し、小児

在宅医療環境の充実を図ることになった。今回の震災では、避難先の病院が無くなる事態となった。医療と電源確保が必須の小児在宅人工呼吸療法にとって、地域で電源確保と医療が受けられる避難場所が必要であった。同時に介護者への食糧や水分確保が病院の避難先ではできなかった。以上のことから、北の拠点は、①3日間電源供給可能な小児在宅医療専門の福祉避難所機能②在宅用消耗品と食料の備蓄基地③医療供給可能な短期入所施設を併設する在宅支援診療所の機能。以上を持った診療所モデルを計画している。あわせて南は児童発達支

援・放課後デイを予定している。

今後、医療施設が一極集中する大都市において震災が発生すると、周辺の都市へ助けを求めることになる。周辺の都市の医療施設と交通網の充実無しには、多くの命が救えない事態となる。災害対策は、県単位でなく広範囲な計画が必要と考えられた。周産期リエゾンやD-MATの連携で今後の災害現場での活躍が期待できる。現在、復旧でなく復興に向けて進ませていただけていることを、感謝申し上げ今回の経験が今後の地震の対策に役に立てることを期待する。

## M4 激励会を終えて

安心院 勇 佑 (M4)

こんにちは。今年度 M4 激励会に司会を務めました、安心院勇佑(あじむゆうすけ)です。今年度の激励会は9月2日、大名にありますホテルモントレラール福岡にて催されました。

はじめに、本学医学部を卒業され、小児在宅医療と呼吸リハビリの普及に精力的に取り組まれ、本年1月に日本医師会赤ひげ大賞を受賞された緒方健一先生よりご講演いただきました。緒方先生は、小児科を中心とした一般診療の傍ら、小児の在宅患者の訪問診療を行われております。講演の中で、難病と闘う子供に真摯に向き合い、患者のQOLの向上に向けて活動される緒方先生の姿に感銘を受け、そのお言葉のひとつひとつを学生一同身の引き締まる思いで聞かせていただきました。

また、烏帽子会会長の高木先生をはじめ、副会長の重田先生、烏帽子会会員の先生方、各班の担任の先生方、5年生の先輩方から激励のメッセージをいただきました。そのお言葉はどれも私たち4年生の成長と福岡大学医学部の発展を願うもので、いつもあたたかく見守り、応援していただいているのだと強く感じられるものでした。先生方や先輩方のお言葉を常に胸に留め、来年 Student Doctor になり、有意義な病院実習を送れるよう精進していく所存です。

最後になりましたが、激励会開催におきましてご尽力いただきました烏帽子会の諸先生方、学生側と連絡を取っていただいた竹下先生、進行の際に多大なご協力をいただいた北島先生に学生を代表して心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



## 2016年 新入生 ケーシー白衣授与式

医学教育推進講座 教授 安 元 佐 和 (7回生)

2016年9月5日、臨床大講堂にて、同窓会より1年生にケーシー白衣の授与式が行われました。同窓会の皆様のご支援に心からお礼を申し上げます。

朔医学部長(1回生)、眼科 林教授(1回生)、耳鼻咽喉科 坂田教授(10回生)、再生医学 小玉教授(13回生)から1年生115名に白衣が贈呈されました。全員でケーシーを着用し記念撮影後、看護・BSLの病院実習がスタートしました。

この実習の目的は、3日間の看護実習と5年生のBSL実習1日体験を通して、患者さんの気持ちを感じること、医師はチーム医療の中でどのような役割を果たすべきか患者さんや看護師の視点に立って考え

てみること、医療者プロフェッショナリズムとは何かを考えることにあります。病棟では、看護師さんと病室を2日間一緒に回り、患者さんの思いを聴く面談の時間を持ちました。また実習期間中に、医師と看護師以外の3職種以上の医療スタッフにインタビューをする課題もあり、多くの職員に御協力をいただきました。

同窓会のお揃いのケーシーを身に付け、初めての病院実習で緊張の1週間を過ごしましたが、「自分はどんな医師になりたいのか」目標を新たにして、それぞれがこれから医学生として成長していくことを期待したいと思います。

同窓会の皆様、本当にありがとうございました。

福岡大学医学部同窓会の皆様  
 この度、僕等1年生にケーシー白衣を贈っていただき、ありがとうございました。  
 昨日、1年生に白衣を身に付けて、病院実習をスタートいたしました。  
 医学生としての最初の実習であつたので、とても緊張が引けず、医療人としての第一歩が踏み出せたことを嬉しく思います。今日感じたことを忘れずに福岡大学の医学生としての自覚をもち勉学に励みます。  
 1年生代表  
 MM160025 松井孝介



# 新 入 生 歡 迎 会

福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 小 玉 正 太 (13 回生)

昨年同様、第一部として西医体委員、医学祭実行委員、九山委員からなる実行委員会が主催の歓迎会、第二部として同窓会主催の歓迎会を開催しました。

第一部を担当した学生は、スケジュール管理、第一会場より第二会場への誘導と同窓会へのバトンタッチを成功させました。

第二部は新入生に在學生 22 名クラス担任教員 12 名理事監事 15 名を加え、総勢 156 名による祝宴となりました。

初めに、田中伸之介理事によるスライドを使っ

て同窓会についての説明があり、新入生も在學生も真剣に話を聞き入っていました。その後担任、教員の先生方より歓迎の言葉をいただき、OB・OGの言葉、同窓の先輩でもある朔医学部長より福岡大学医学部が目指しているビジョンについてのお話、恒例のTシャツ贈与(通称烏帽Tと言われているらしい)と続き、最後は全員 T シャツ着用で校歌斉唱となりました。

これからの 6 年間有意義な学生生活を送って欲しいと強く願っています



## 同窓会とは……？

人として、医師として  
「先輩を敬い、後輩を導く」

### 烏帽子会の主な事業



- |         |         |              |
|---------|---------|--------------|
| ①会報の発行  | ⑦白衣贈与   | ⑬グッズ作製       |
| ②総会の開催  | ⑧国試対策   | ⑭会員名簿発行      |
| ③支部活動援助 | ⑨支部総会援助 | ⑮パニックマニュアル発行 |
| ④研究奨励賞  | ⑩学生行事援助 | ⑯奨学金貸与       |
| ⑤在外研修援助 | ⑪学会寄付   | ⑰縁結び         |
| ⑥学生対策   | ⑫慶弔贈与   | ⑱保険コンサルティング  |



支部便り

## 筑後支部便り

福岡大学医学部同窓会筑後支部 支部長 浅倉 敏 明 (8回生)

### 大塩先生を囲む会

7月6日に久留米市内の店で大塩善幸先生(4回卒)を囲む会を開きました。

出席者は大塩先生夫人の大塩加州子先生(9回卒)、山内祥弘先生(12回卒:やまうちクリニック院長)、浅倉(8回卒:浅倉整形外科医院)夫婦の5名です。私と山内君は学生時代ラグビー部で大塩先輩に鍛えられました。先生は脳血管障害を患い後遺症がありますが、お元気にされています。(文責 浅倉敏明)



一列目向かって左から 大塩善幸、浅倉敏明  
二列目向かって左から 浅倉百合子、山内祥弘、大塩加州子 (敬称略)



キャンパスだより

《烏帽子会賞受賞者一覧》

愛好会名	受賞者	受賞対象
アーチェリー愛好会	鎌谷 魁星	第九回西日本医科学生アーチェリー競技大会 男子個人総合第2位
アーチェリー愛好会	柳 遼 崇志	第九回西日本医科学生アーチェリー競技大会 男子個人総合第3位
6年生	宮部 美圭	第106回日本消化器病学会九州支部例会 研修医奨励賞
4年生	野中 裕文	第105回日本病理学会総会 学部学生ポスター 最優秀賞

西医体準優勝から学んだこと

福岡大学アーチェリー愛好会 鎌谷 魁星 (M4)

まず初めに、栄誉ある烏帽子会賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

この度、私は第9回西日本医科学生アーチェリー競技大会にて男子個人で準優勝したことをご報告いたします。

今回の大会に出場した時、私は部長を務めておりました。アーチェリーを始めて4年目、未だ大会では結果を残せずにおりました。これまでは誰に教わることもなく、一人で練習をしておりました。一年生の時から自主練もしていたのですが、全く上手くなりません。部活を率いる立場にもなり、焦りまで感じておりました。やはり生まれ持った才能が無いからか、などと半ば諦めの気持ちにもなりました。

その様に悩んでいた時、アーチェリーの指導者の

方と出会う機会がありました。この時を逃すまいと思い、これまで疑問だった射ち方や弓の調整について矢継ぎ早に質問を投げかけました。本当に優しい方で、丁寧に教えてくださり、後日指導までしていただけるようになりました。そこからは面白いほどに点数が伸びました。なぜ短期間で上達したのか、理由は至極簡単なことです。これまでの練習の仕方が間違っただけだったのです。実力がないのも納得でした。

この入賞を通して思ったのは、何事においても努力の仕方を間違えないことです。独りよがりになると、時間を犠牲にするどころか実力もつきません。新しい事を始めるには、それを知る方と交流することが重要である。このことを強く認識した大会でした。

最後になりましたが、これまで相談に乗ってくださった顧問の坂田先生、OB・OGの先生方、今まで本当にありがとうございました。今後ともアーチェリー愛好会をよろしくお願いいたします。



## 西医体洋弓入賞のご報告

福岡大学アーチェリー愛好会 柳 邊 崇 志 (M2)

5月に行われました第9回西医体アーチェリー競技大会において3位入賞することが出来ましたので、ご報告させていただきます。7月の烏帽子会総会におきましては、温かい言葉をおかけ頂いたこと、これからの大会に向けた激励のお言葉いただけましたこと、日頃より様々応援・サポートしていただいていることと合わせ、改めて先輩先生方には感謝してやみません。本当にありがとうございます。

今大会は、初日に30m・50mを計72本、2日目に山の中で行う競技計72本の合計得点で争われます。2日目は弓を片手に山登りをしていくのですが、的ごとに山の景色は違った顔を見せ、目を楽しませてくれます。設置される的も一様ではなく、数mの距離で高い位置にある的を狙うものから、50mを超えた先の的に向けて崖の上から見下ろすように撃つものま

で様々です。一つの的につき3本の矢を撃つのですが、1本目でおおよそ狙う位置を定め、そのずれから2本目を修正し、3本目で確実に点を取れるかどうか、これが勝負のカギを握ります。

より高い点数を目指し・入賞を狙っていく中で、プレッシャーが無かったと言えれば嘘になります。それで点数が伸び悩んだこともあります。そんな時に支えとなったのは、OB・OG先輩方の温かい言葉であり、先輩のアドバイスであり、同じ部活の友人の存在です。競技が始まれば一人の世界にのめりこむこの競技ですが、アーチェリーが好きで集まった仲間と楽しむこと、これこそが愛好会の姿であり、また、上達への近道でもあると改めて感じます。この気持ちを忘れず、これからも目標に向かっていければと思います。ありがとうございます。



## 第 106 回日本消化器病学会九州支部例会 研修医奨励賞受賞

宮 部 美 圭 (M6)

はじめに、今回このような名誉ある烏帽子会賞を頂  
きまして有難うございます。2015年12月4日に開  
催された第106回日本消化器病学会九州支部例会  
において研修医奨励賞(第一席)を受賞しましたので  
ご報告させていただきます。

福岡大学消化器外科、内視鏡チームの塩飽洋生  
先生よりご指導を賜り、「キャスルマン病を合併した  
Sigmoid型食道アカラシアに対してPOEMを施行し  
た一例」について症例発表をさせていただきました。  
私は学会で発表すること自体初めてでしたが、抄録  
やスライド作り、発表の仕方まで熱心にご指導をい  
たいただきました。先生方のご指導の下、一から準備をし、  
関連する文献を読み、練習をする作業は私にとって  
はどれも新鮮で、一種の気分転換のような楽しい時  
間でした。本番では唯一の学生としての発表というこ  
ともあり緊張しましたが、日頃の練習の成果を出すこ  
とができ、身に余る賞を頂くことができました。東京  
で行われた総会にもご招待いただき、また大腸内視  
鏡のハンズオンセミナーも受講することができ、大変  
貴重な経験をさせていただきました。医師として情  
報を発信することも重要な役目であるので、来年医  
師となってからも、この経験を活かし積極的に学会発

表などにも参加していきたいと思えます。

最後に、学生にもかかわらず学会発表という貴重  
な機会を与え、お忙しい中時間を惜しまずご指導い  
ただいた内視鏡チームの先生方、また、関わってい  
ただいた方々に心より感謝申し上げます。



## 第 105 回日本病理学会総会での 学部学生ポスター発表を通して

野 中 裕 文 (M4)

第 105 回日本病理学会総会の学生ポスター発表で「進行膵癌に合併した trousseau 症候群の 1 剖検例」という演題で発表させていただきました。

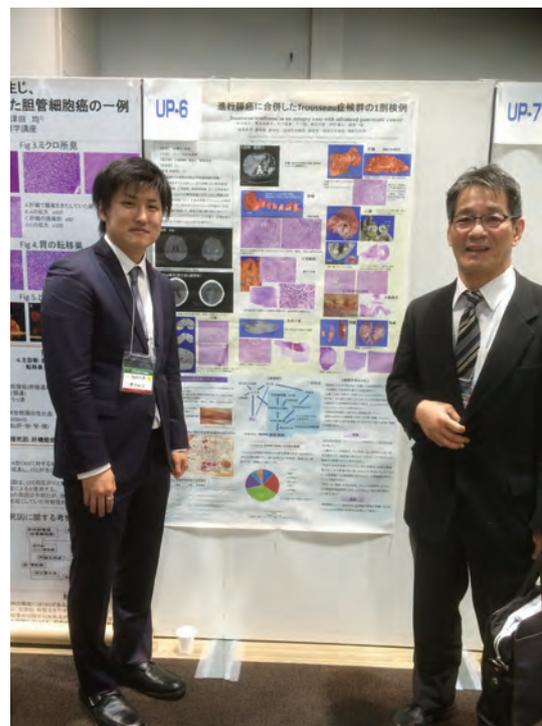
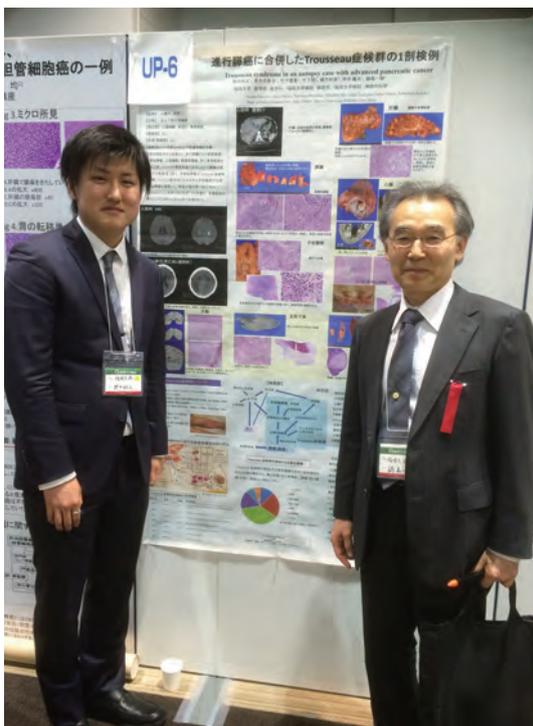
今回私が発表させていただくことになったのは病理学講座の青木光希子先生から声をかけていただいたからです。発表の準備は三月下旬から始め四月半ばに病理学講座内で予行をさせていただきました。その際、先生方に多くのご指摘とアドバイスをいただき、推敲を重ねました。本番では緊張しましたが、質問を受けてもあせらずに受け答えすることができました。

学会発表という学生の間はなかなか体験することのできない経験を通して、一つのことをしっかりと勉強する面白さがわかりました。Trousseau 症候群と

いう病気の病態を理解するために臓器の写真をみて、顕微鏡を覗くということを繰り返しました。その一つ一つの目に見えることから患者さんがどういう状態にあったのか、なぜそうなったのかという理屈があることを知り、病理学の考え方は患者さんを診るうえで大切であると感じました。今回の経験を日ごろの勉強に活かし一つ一つの課題に真摯に取り組み、医学の道を進みたいと思います。

先生方のご指導のおかげで肝胆膵の部門で最優秀賞をいただきました。

最後になりましたが、この機会を与えてくださいました鍋島教授、竹下教授、そして、ご指導いただいた青木先生をはじめとする病理学講座の先生方、ありがとうございました。



# 福岡大学医学部同窓会諸表

## 平成 27 年度収入支出決算

区分	科 目	27 予算 :A	27 決算 :B	27 決算予算比較	27 決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	10,550,609	10,550,609	0	
	会 費 収 入	29,106,000	33,132,020	▲ 4,026,020	入会費：5,664,770 学会費：5,257,540 年会費：22,032,670 準年会費：177,040
	手 数 料 収 入	200,000	547,699	▲ 347,699	契約件数 30 人
	協 賛 金 収 入	0	0	0	
	雑 収 入	50,000	27,880	22,120	グッズ売上ほか
	預 り 金 収 入	40,000	60,750	▲ 20,750	
	仮 入 金	0	2,000,000	▲ 2,000,000	
	合 計	39,946,609	46,318,958	▲ 6,372,349	
支 出	給 与	3,330,000	3,366,235	▲ 36,235	パート延べ 3 名
	旅 費	2,100,000	2,348,230	▲ 248,230	役員旅費：488,010 評議員会：309,600 私大連絡会：446,580 その他：1,104,040
	事 務 用 品 費	400,000	317,415	82,585	
	印 刷 費	2,936,000	2,176,184	759,816	会報：2,110,304 封筒：65,880
	通 信 運 搬 費	1,817,000	1,275,386	541,614	電信電話：92,943 会報：604,068 切手葉書：165,998 その他：412,377
	設 備 工 事 費	240,000	162,000	78,000	維持契約
	什 器 備 品 費	240,000	19,948	220,052	データバックアップ他
	事 業 費	19,460,000	17,735,263	1,724,737	総会費：362,066 研究奨励賞：1,679,049 在外研究援助金：600,000 学生対策：4,780,712 国試対策費：623,202 学生行事援助費：831,427 支部活動費：3,908,147 支部祝儀：120,000 M5 白衣贈与：1,038,506 慶弔費：1,221,294 学会寄付：2,400,000 縁結び支援費：170,860
	会 議 費	2,000,000	1,143,697	856,303	理事会、会長懇話会：507,066 評議員会：542,073 各種会議他：94,558
	公 租 公 課	71,000	71,000	0	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
	雑 費	3,032,400	1,304,891	1,727,509	税理士報酬：32,400 渉外費：93,090 業務用グッズ：5,443 その他：1,173,958
	預 り 金 支 出	40,000	58,740	▲ 18,740	給与源泉徴収税
	引 当 金 積 立	2,000,000	0	2,000,000	
	借 入 金 返 却	0	2,000,000	▲ 2,000,000	
予 備 費	2,280,209	0	2,280,209		
	合 計	39,946,609	31,978,989	7,967,620	
	収 支 差 引	0	14,339,969	▲ 14,339,969	

## 平成 27 年度残金処分

残金額（収支差引額）	14,339,969 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	2,000,000 円
事業積立金積立	0 円
次年度繰越	12,339,969 円

## 平成 27 年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	88,683,999	12,024,215	8,387,179	109,095,393
本年度増加額	195,000	457,500	810,000	1,462,500
本年度受取利息	10,532	204		10,736
本年度減少額			▲ 5,413,816	▲ 5,413,816
本年度未決算額	88,889,531	12,481,919	3,783,363	105,154,813

## 平成 27 年度事業報告と平成 28 年度事業計画

項目	年度		平成 28 年度 事業計画	
	平成 27 年度 事業計画	平成 27 年度 事業報告	平成 28 年度 事業計画	C - A
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	
① 会報の発行	3,443,000	2,714,372	3,453,200	10,200
② 総会の開催	400,000	362,066	400,000	0
③ 支部活動援助	1,900,000	3,908,147	1,900,000	0
④ 研究奨励賞	1,600,000	1,679,049	1,600,000	0
⑤ 在外研究援助	2,000,000	600,000	2,000,000	0
⑥ 学生対策	4,100,000	4,780,712	4,500,000	400,000
⑦ 白衣贈与	1,100,000	1,038,506	2,000,000	900,000
⑧ 国試対策費	2,000,000	623,202	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	120,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	800,000	831,427	800,000	0
⑪ 学会寄付	2,000,000	2,400,000	2,000,000	0
⑫ 慶弔贈与	300,000	1,221,294	300,000	0
⑬ グッズ作製	0	0	0	0
⑭ 会員名簿発行	5,000,000	4,409,542	0	▲ 5,000,000
⑮ バニックマニュアル発行	0	194,292	0	0
⑯ 奨学金貸与	0	0	0	0
⑰ 縁結び	1,000,000	170,860	1,000,000	0
⑱ 保険コンサルティング	30,000	0	30,000	0
合計	25,903,000	25,053,469	22,213,200	▲ 3,689,800

## 平成 28 年度収入支出予算

区分	科目	27 予算	28 予算	28 年度予算摘要	28 予算-29 予算
収入	繰越金	10,550,609	12,339,969		1,789,360
	会費収入	29,106,000	29,351,000	入会費：5,189,000 学年会費：4,722,000 年会費：19,300,000 準年会費：140,000	245,000
	手数料収入	200,000	360,000	保険コンサルティング紹介手数料	160,000
	協賛金収入	50,000	20,000		▲ 30,000
	雑収入	40,000	40,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	0	0	給与源泉徴収税	0
	積立金繰入	0	0		0
	仮受金				
合計	39,946,609	42,110,969		2,164,360	
支出	給与	3,330,000	3,330,000	パート 2 名	0
	旅費	2,100,000	2,100,000	役員旅費：600,000 評議員会：500,000 私大連絡会：500,000 その他：500,000	0
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	2,936,000	2,959,000	会報：封筒：2,599,000 封筒：200,000 その他：160,000	23,000
	通信運搬費	1,817,000	1,777,200	電信電話：100,000 会報：877,200 切手葉書代：30,000 その他：500,000	▲ 39,800
	設備工事費	240,000	240,000		0
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	19,460,000	19,760,000	総会費：400,000 研究奨励賞：1,600,000 在外研修援助金：2,000,000 学生対策費：4,500,000 国試対策費：2,000,000 学生行事援助費：80,000 支部活動費：1,900,000 支部祝儀：230,000 BSL 用白衣贈与費：2,000,000 慶弔費：300,000 学会寄付：2,000,000 縁結び：1,000,000 保険コンサルティング：300,000 事業予備費：1,000,000	300,000
	会議費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会：700,000 評議員会：500,000 各種委員会：300,000 その他：500,000	-
	公租公課	71,000	71,000	福岡市民税	-
	雑費	3,032,400	2,032,400	税理士報酬：32,400 渉外費：500,000 慶弔費：500,000 その他：1,000,000	▲ 1,000,000
	預り金支出	40,000	40,000	給与源泉徴収税	-
	引当金積立	2,000,000	3,500,000		1,500,000
	協賛金支出	0	0		-
借入金返却				1,381,160	
予備費	2,280,209	3,661,369		2,164,360	
合計	39,946,609	42,110,969		2,164,360	
収支差引	0	0		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)  
(平成28年10月現在)

	医局長	病棟医長	外来医長
<b>[ 福大病院 ]</b>			
腫瘍・血液・感染症内科	田中俊裕 ⑰	正木充生 ⑳	猪狩洋介 ㉑
内分泌・糖尿病内科	田邊真紀人	寺脇悠一 ㉑	田邊真紀人
循環器内科	三浦伸一郎 ⑪	池周而 ㉒	森井誠士 ㉒
消化器内科	阿南章 ⑱	田中崇	横山圭二 ㉒
腎臓・膠原病内科	安野哲彦 ㉒	安部泰弘 ㉑	植木尚子
血液浄化センター		笹富佳江 ⑬	
呼吸器内科	石井寛	松本武格 ㉒	廣田貴子
神経内科・健康管理科	合馬慎二 ㉓	津川潤	深江治郎
精神神経科	吉良健太郎 ㉓	衛藤暢明	黒岩健輔 ㉓
々 (ディケア)			飯田仁志 ㉓
小児科	井手康二 ㉒	藤田貴子 ㉒	井手口博 ⑰
消化器外科	吉田陽一郎	佐藤啓介 ㉒	米良利之 ㉒
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	吉田康浩 ㉒	宮原聡	早稲田龍一
整形外科	前山彰 ㉒	田中潤	木山貴彦 ㉒
形成外科	川上善久	瀨上淳太	井上真衣
脳神経外科	安部洋 ㉒	武村有祐 ㉓	森下登史
心臓血管外科	峰松紀年	林田好生 ㉒	松村仁
皮膚科	伊藤宏太郎 ㉒	大賀保範	柴山慶継 ㉒
泌尿器科	入江慎一郎 ⑰	古屋隆三郎 ㉓	松崎洋吏 ㉒
産婦人科	宮原大輔 ㉒	荒木陵多 ㉓(産科) 阿南春分 ㉓(婦人科)	讚井絢子 ㉒
眼科	梅田尚靖 ⑱	日吉篤史 ㉒	有田直子 ⑮
耳鼻咽喉科	大西克樹 ㉒	上野哲子 ㉒	佐藤晋 ㉒
放射線科	光藤利通 ㉒	赤井智春 ㉒	野々熊真也 ㉒
麻酔科	平田和彦 ⑫	平田和彦 ⑫	柴田志保 ㉒
歯科口腔外科	瀬戸美夏	近藤誠二	喜多涼介
病理部	溝口幹朗 ⑥		
臨床検査部	松本直通 ⑭		
輸血部	熊川みどり		
救命救急センター	川野恭雅 ㉒	入江悠平 ㉑	
総合周産期母子医療センター		太田栄治 ⑰(新生児部門) 甲斐裕樹 (3階南病棟)	
総合診療部	武岡宏明 ㉒	堀端謙	鯨坂和彦 ㉒
東洋医学診療部	久保田正樹 ⑭		
<b>[ 筑紫病院 ]</b>			
筑紫病院(総医局長)	本多博一		
循環器内科	白井和之 ⑧	岡村圭祐 ㉒	山本智彦 ㉒
内分泌・糖尿病内科	※工藤忠睦 ㉓	阿部一朗	小林邦久
呼吸器内科	赤木隆紀 ㉒	宮崎浩行	原田泰志
消化器内科	光安智子	高橋晴彦 ㉒	岸昌廣 ㉒
小児科	吉兼由佳子 ⑰	山崎靖人 ㉒	鶴澤礼実
外科	平野公一 ㉒	平野由紀子 ㉒	三宅徹 ㉒
整形外科	秋吉祐一郎	櫻井真 ㉒	野村智洋 ㉒
脳神経外科	新居浩平 ㉒	伊香稔	坂本王哉 ㉒
泌尿器科	平浩志 ⑮	平浩志 ⑮	宮嶋哲匡 ⑰
眼科	本多博一	本多博一	本多博一
耳鼻いんこう科	杉山喜一 ㉑	杉山喜一 ㉑	樋口仁美
放射線科	山本良太郎 ㉒		
救急科	松尾邦浩 ⑧		
麻酔科	生野慎二郎 ⑧		
病理部	原岡誠司		

(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)

## 教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[平成 28.4.2～28.10.1]

区分	所 属	資 格	氏 名	発令日	摘 要
退 職	筑 紫 眼 科	講 師	佐 々 由季生	28. 6.30	
	救 命 救 急 セ ン タ ー	講 師	田 中 潤 一	28. 9.30	
採 用	寄付研究連携形成・創傷再生学講座	教 授	秋 田 定 伯	28.10. 1	
	消 化 器 内 科	講 師	竹田津 英 稔	28.10. 1	
昇 格	感 染 制 御 部	教 授	高 田 徹	28.10. 1	
	消 化 器 内 科	准 教 授	入 江 真 ⑬	28.10. 1	
	消 化 器 外 科	講 師	吉 村 文 博	28.10. 1	
	筑 紫 消 化 器 内 科	講 師	矢 野 豊	28.10. 1	
	筑 紫 小 児 科	講 師	吉 兼 由佳子 ⑰	28.10. 1	
	筑 紫 内 視 鏡 部	講 師	長 浜 孝 ⑰	28.10. 1	
	腫 瘍 ・ 血 液 ・ 感 染 症 内 科	講 師 4 - 7	戸 川 温	28.10. 1	
	腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	講 師 4 - 7	安 野 哲 彦 ⑳	28.10. 1	
	形 成 外 科	講 師 4 - 7	川 上 善 久	28.10. 1	

### 事務局からのご連絡

会員名簿第11号、会報60号に誤りがありましたので下記のとおり訂正させていただきます。  
関係者の方々に多大なるご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。

名簿・会員検索 308 ページ

† 徳光秀出夫→徳光秀出夫

会報・教育職員人事 41 ページ

寄付研究連携呼吸洲眠医学講座→

寄付研究連携呼吸睡眠医学講座

カラーになりました会報はいかがでしょうか？先生方からの投稿をお待ちしております。

## 編 集 後 記

福岡大学医学部が創設されてから10年目の1982年、医学部同窓会は烏帽子会の愛称で発足し、現在34年目の歴史を紡いでいます。私は1981年の入学だったせいか、学生時代の前半は烏帽子会の名前を聞いた記憶がありません。後半になると少しずつ名前を耳にするようになりましたが、漠然と卒業生の集団としか認識していませんでした。私の同級生にもそのようなイメージを持っていた人が多かったように記憶しています。一方、現在の現役生の中で烏帽子会におぼろげなイメージしか抱けない人は少ないと思います。学生さんの感情が好意的なものか否かはさておき、烏帽子会のネットワークは着実に拡大し、その存在意義を明確に発信しながら現役生、卒業生との交流を深めてきました。そのことは烏帽子会会報をひもといても明らかです。

大学は学問や課外活動を通して個々の人間力を養い、集団の中における個人の在り方を問うことも大切なプログラムです。しかしながら優先課題の多さや人的資源の制約から、大学教員のみでそれを実践することは困難です。そのような意味で、烏帽子会による学業・研究活動に対する支援をはじめ、愛好会活動への支援はとても意義のあることだと感じます。烏帽子会は医学部の教育プログラムに寄り添うかたちで大学の使命を補完してきました。これから先も福岡大学医学部の価値を高めるように発展することを祈念すると同時に、卒業生として少しでも貢献したいと考えています。

文責 坂田 俊文（10回生 広報担当）

# 医学祭を終えて

## 第36回福岡大学

本年度11月3日～11月5日に行われました第36回福岡大学医学祭についてご報告致します。本年度の医学祭は前委員長の吉村さんから今年の2月にバトンを受け、実行委員会を発足しスタートしました。約9か月の準備期間の中で、医学祭を発展させ、今後につながるものとするべく実行委員や医学部長、烏帽子会の先生方と度重なる会議を行って参りました。その中で、同窓会本部から作成費用の補助と北島研先生から多くのご指導を賜り、本年度より次年度以降に引き継ぎ可能なホームページの立ち上げと広告協賛のホームページへの完全移行を行いました。これにより、インターネットを介しての告知が可能となったのはもちろんのこと、これまでの情報をホームページ上に蓄積していくことで過去の医学祭を振り返ることが可能となりました。今後も様々な工夫を加えていくことで、より効果的なものに発展していくものだと思います。

本年度の医学祭では、これまでの医学祭の資料やデータをもとに先輩方が築き上げてこられた伝統を踏襲しつつ、改良可能な部分に関しては積極的に改革を行うことにより大幅なコスト削減に成功いたしました。実行委員会で医学祭を運営していく中で様々な困難もありましたが、皆で協力して乗り越え成功させられたの



はこの学年にとって素晴らしい思い出となり、大きな財産となったのではないかと思います。

最後になりましたが、多大なご協力を賜りました、医学部長朝啓二郎先生をはじめ、学生部長の小玉正太先生、多くのご助言を頂きました笠健児朗先生、北島研先生、烏帽子会の諸先生方、医学部事務課の皆様、運営にあたりご協賛頂いた皆様、医学祭実行委員会のメンバーに心より御礼申し上げます。これを以て私たちの活動は終了し、来年度の実行委員にバトンを繋ぎますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。以上で本年度医学祭のご報告を終了致します。

平成28年度福岡大学医学部  
医学祭実行委員会  
委員長 M4 安心院 勇佑



## 福岡大学医学部同窓会 第36回 烏帽子会総会

開催日 平成29年7月1日(土) 5:00PM～9:00PM 会場 ソラリア西鉄ホテル

### 烏帽子会会報第61号

発行日 平成28年12月1日  
発行人 高木 忠博  
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1  
福岡大学医学部同窓会  
電話:092-865-6353(直通)  
092-801-1011(代表) 内線[3032]  
FAX:092-865-9484  
E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)  
福岡市中央区長浜2-1-30  
電話:092-711-7741  
FAX:092-711-7901